

一言寺



醍醐天皇陵の三寶院の山の家

皇六十代の帝御諱を授け
宇多帝第一の皇子は位二十

三年延長八年九月廿一日崩
壽四十六延壽御代と稱は

朱雀天皇陵を日所陵所あり

醍醐帝の皇子ありて二十一代の主上あり
在位十六年天曆六年八月十九日崩ト云

聖寺二十歳
天曆御代と稱は

一言寺を醍醐の南里あり

通言宗ありて本尊を千子親香ありて
醍醐寺に属は

安阿弥の位之内侍堂も當寺の本願阿弥内侍の像を安置は

妙納言信西の

直谷南禅院を醍醐の巽あり成賢僧正後進の地あり本を阿弥陀

佛の坐像ありて是日の位より側は地藏尊と安置は
信一々々を一夜の間に

多くは伊豆極楽と云

笠取山

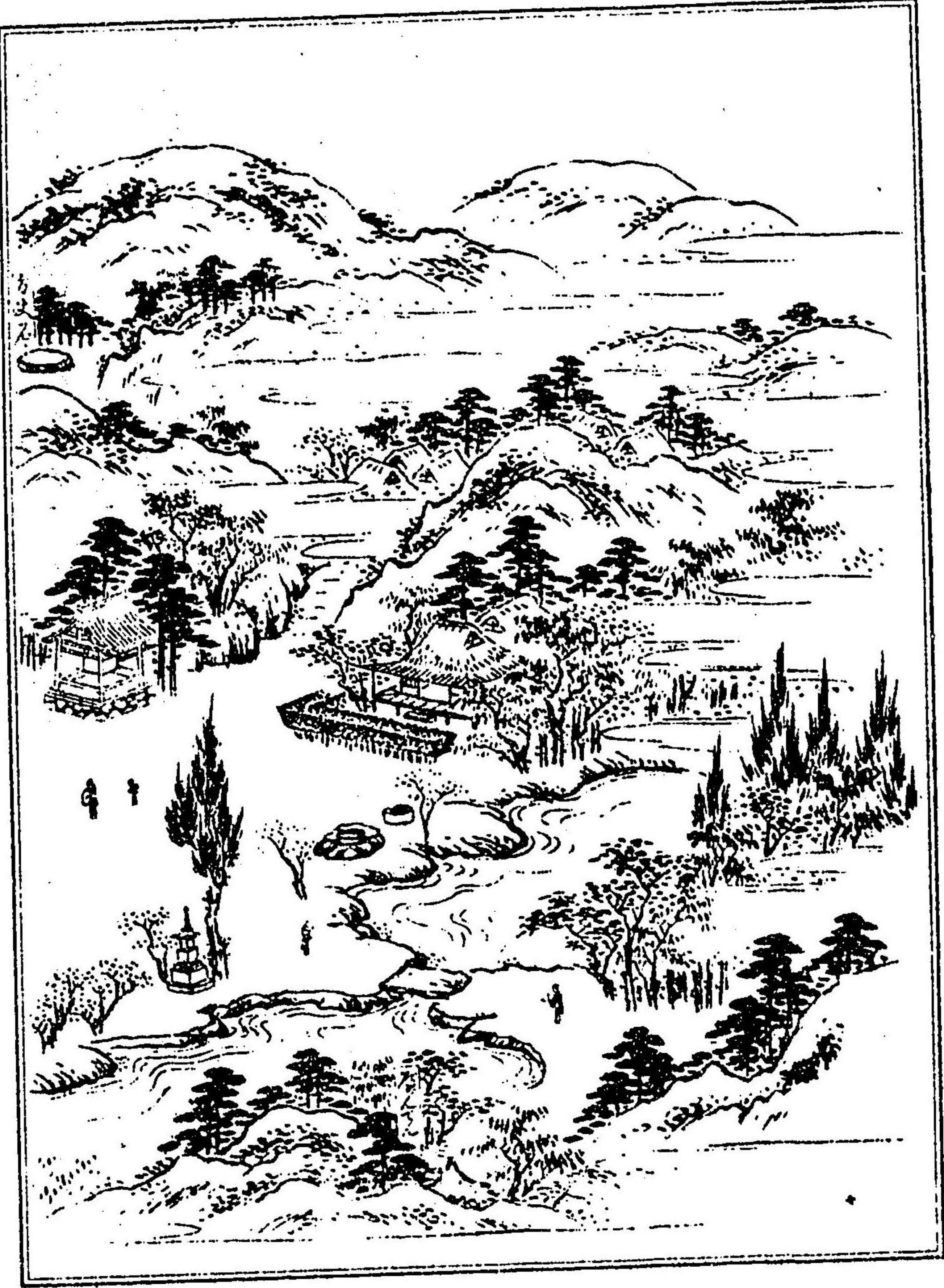
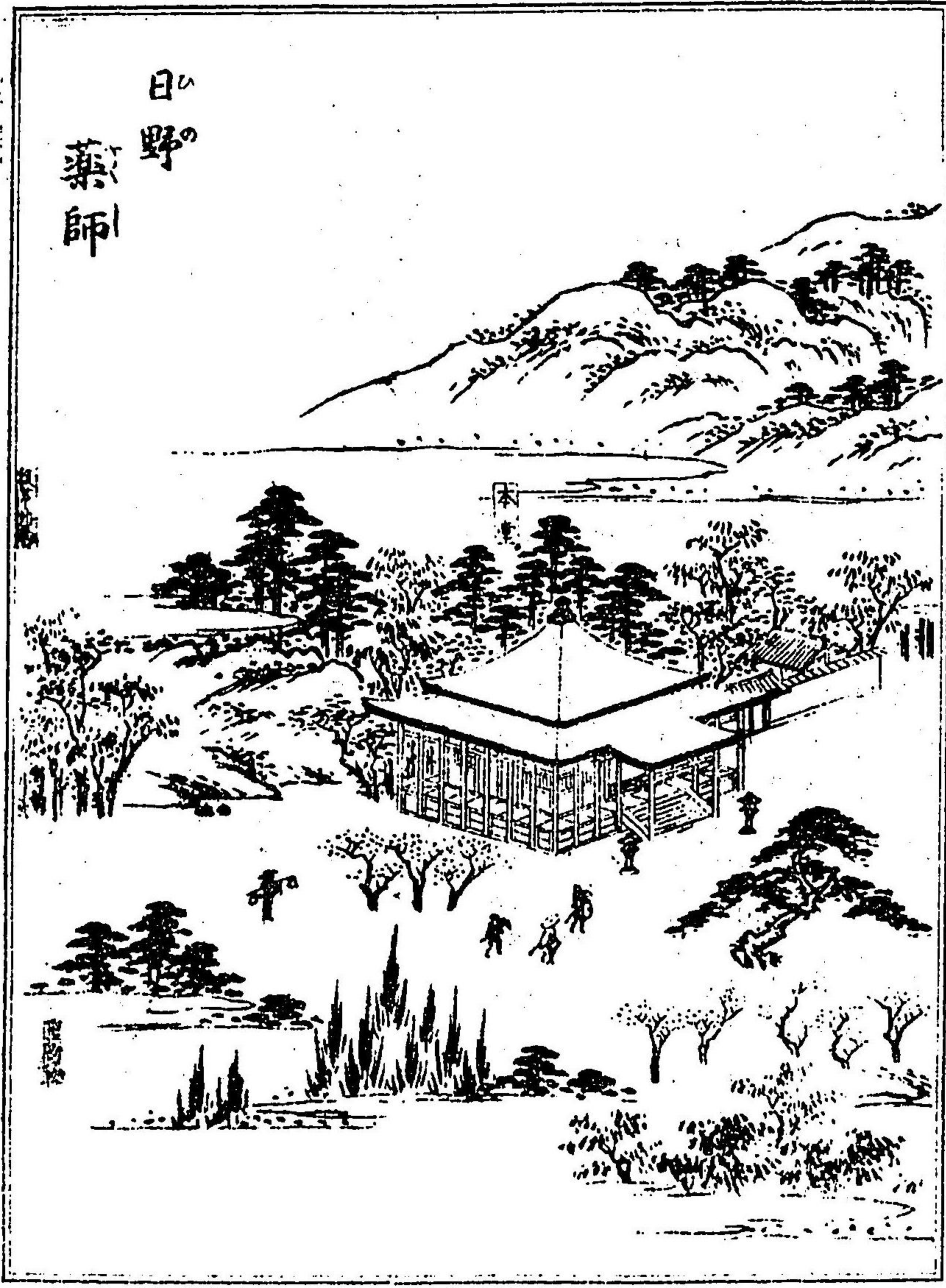
醍醐のよりあり民村多し其の時ふ山近の國あり
岩阿寺ありと云ふなりと町とありと云ふなり一里あり

心本よりありたなりと云ふなり人村雨くたぬ笠取の山

笠取の山ありたのみと云ふなりと云ふなりと云ふなり
西行

横基

日野の
薬師



日野薬師と言寺の南日野村ありは景宗と号に奉養薬師如来と金銅
れ坐像と日天月天十二神二王等運慶の作ありて在るに安徳の
後阿弥陀堂ありて後壇より六六の法陀の像あり安徳の
定朝れ位之初と日野村中辨資業卿の本願ありて諸堂魏より祀者
堂五大堂大門の蹟今田畑の字とありて當寺に人あり日野村より則
日野家別社の旧あり今土内裡

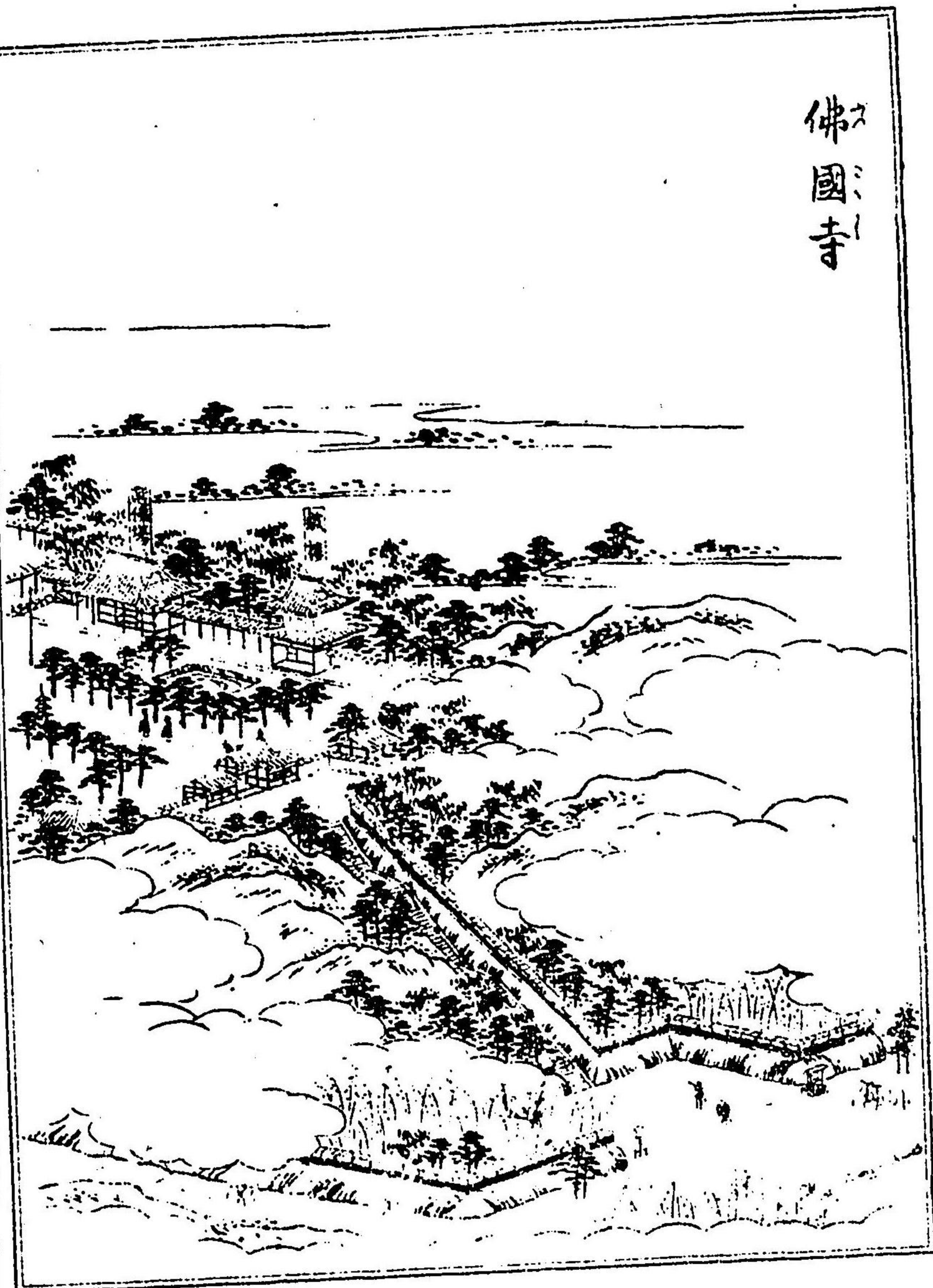
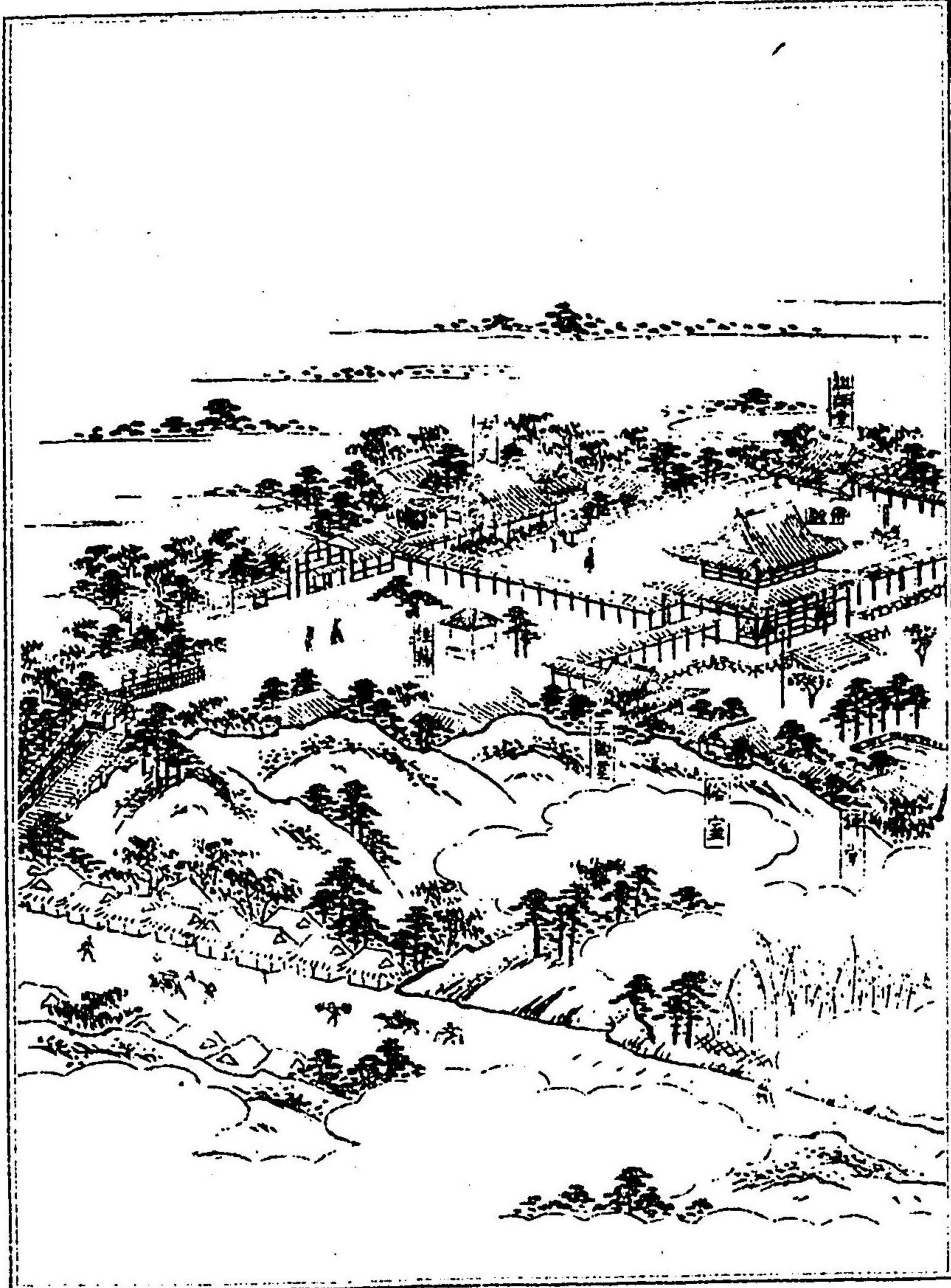
重衡は日野村系園の中あり三位中將重衡卿治承四年南都東大寺法
の重衡は日野村の系園の中あり 長明方丈石日野村のあり五所計外は石床三間四面高
式丈計一説は名を千人石といふ絶景ありて遠近の佳境一眺の中に
地勢は日野村の系園の中あり 東鑑小白建仁元年十月十三日鴨社人菊大夫長明入道法名依雅經

朝臣之舉此間下向奉謁將軍右大臣實朝公云
方丈記云曰

月くけへ入ふの場もほろりたるをまろり候なりと云 長明
石田社之醍醐の南あり石田社氏家村中あり天照大神日古山王
系あり里の氏神と候おがまの石田の小野

稚子唱る石田の小野のつら草あまたなり候と云 長車
板ちる石田の小野れ風ふと海へくたてのつら草と云 中野御親王
考くして安徳と云と云ん候石田の小野の紅葉ありん 順徳院

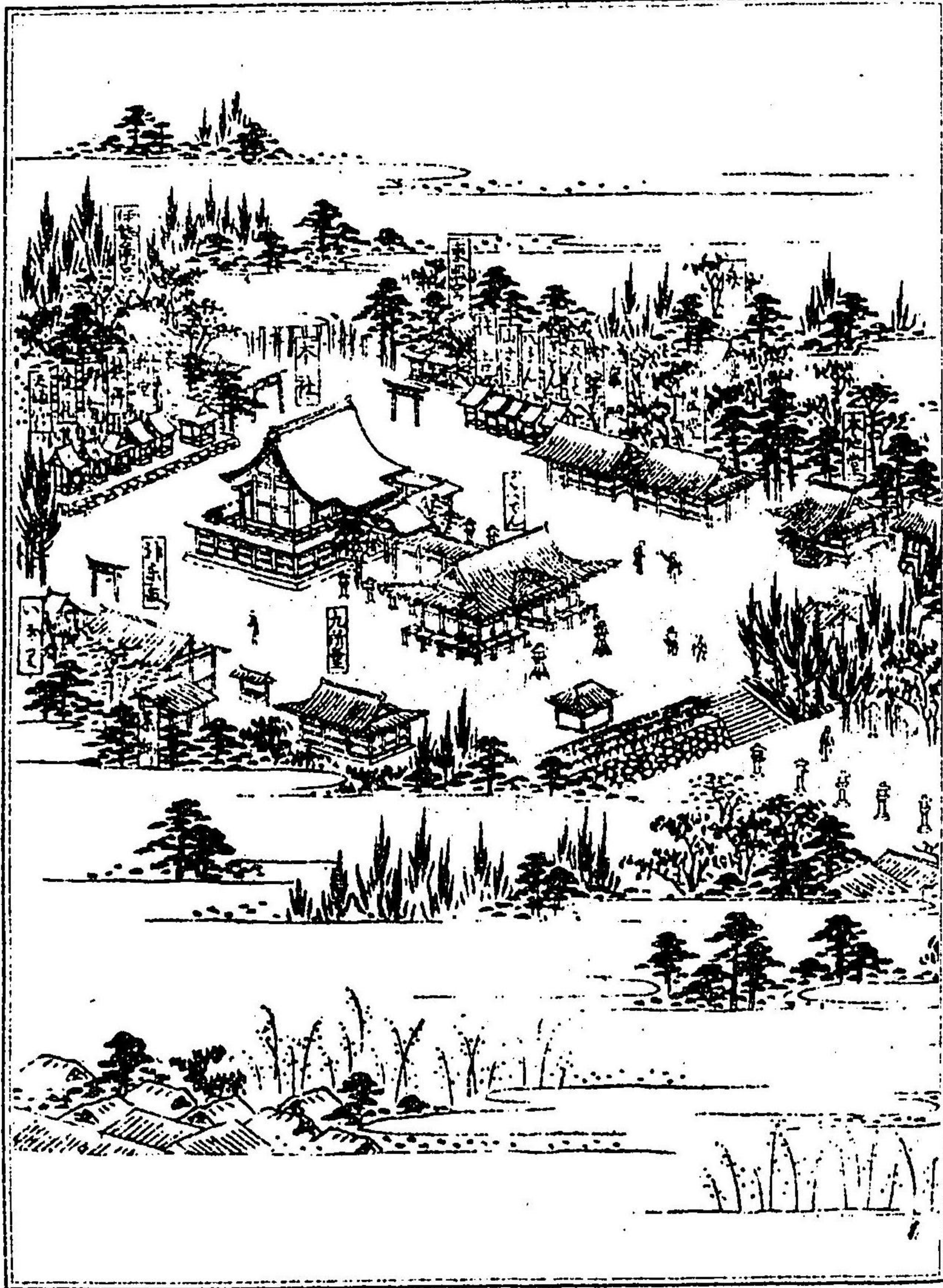
小栗栢里石田の西ありは所なり本幡と云候ては是城山小栗なるあり候
明智越と云天正十一年明智光秀と徳の合戦小栗は石田の村ありしと云
は道なき小栗栢の村民とて竹の鏡とて書けしゆへと云

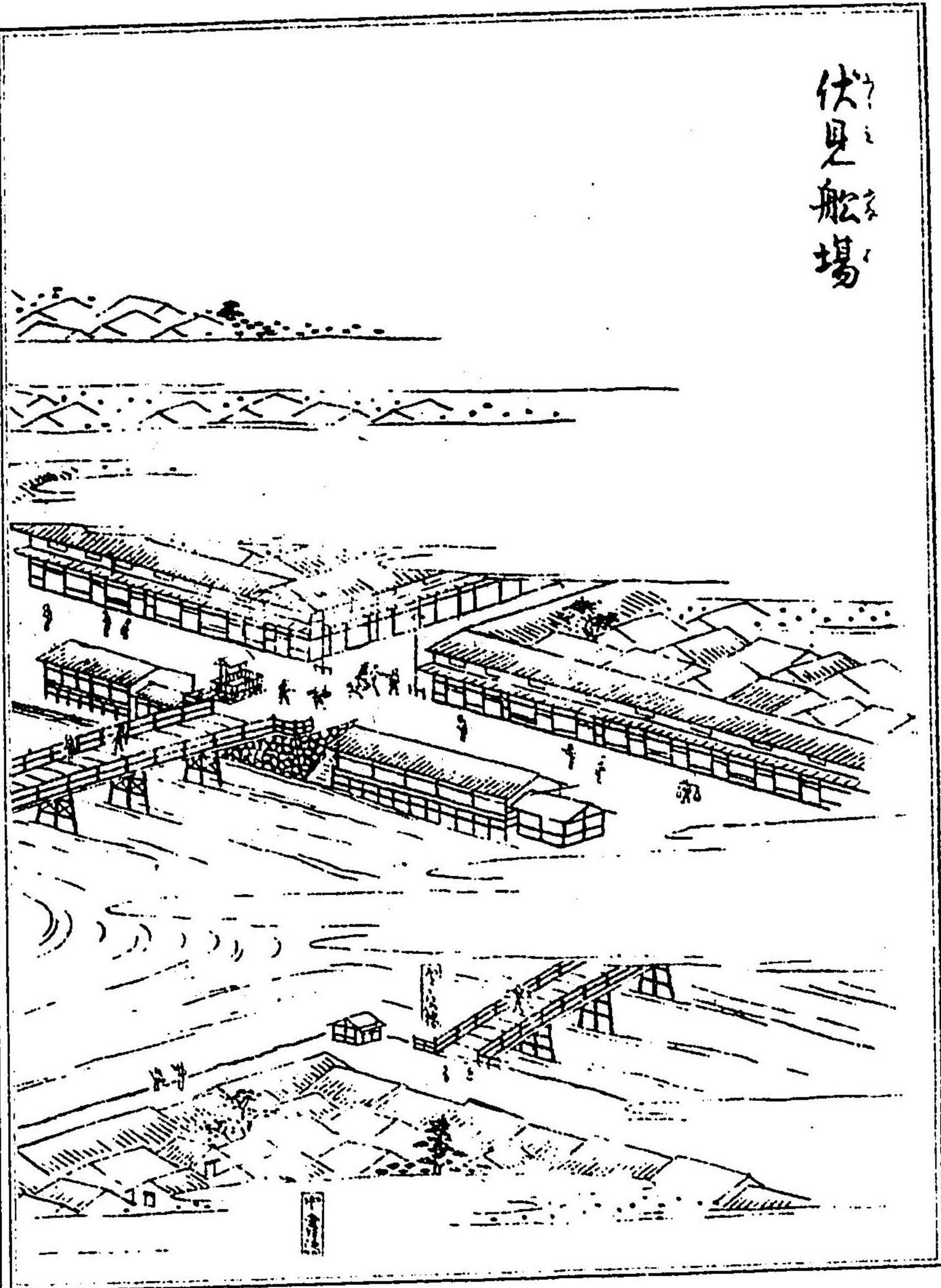
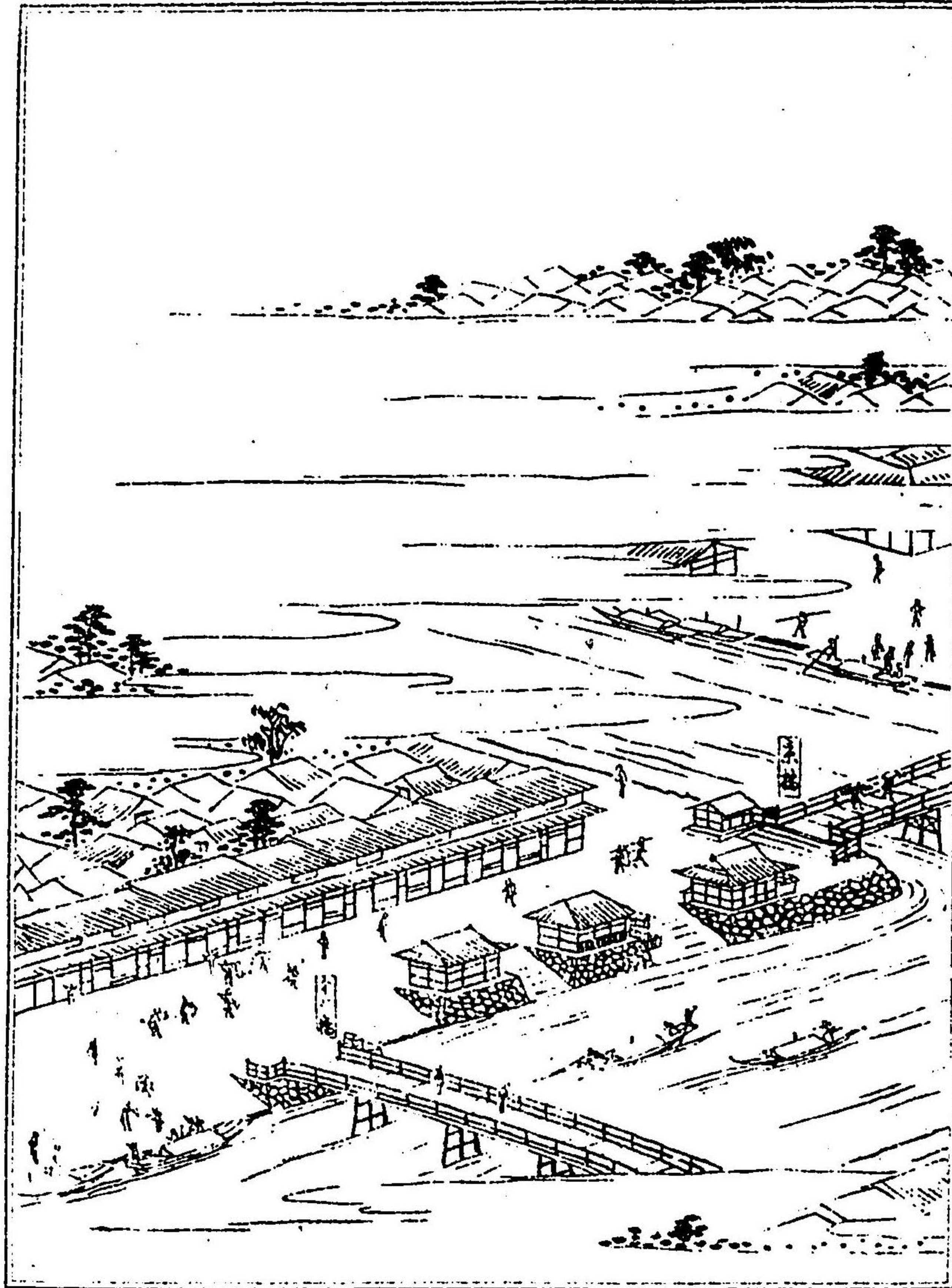


佛國寺

天王山佛國寺の伏見城山はなりふあり田基の多葉山五世高泉和尚の
 大明福州の人なり承應 佛殿の本尊の釋迦佛と安養及類 普光高泉の
 三年日本に渡海に 筆より柱小懸飯のくは 四面に香吐九天日月
 十動を拂拂圓形聖山印 額 佛 昂非の筆を食堂の額 五福
 高泉の筆田山堂の額 信敬法親王の筆堂内を高泉和尚の像安養後大徳園の観音女
 安室して額の高泉の筆と南の門額 天王
 本庵の筆柱小懸飯揚高泉
 此筆之 四象を奉納佛國
 高泉碑銘 此銅とびくまれば諸聖座を龜の殼
 小して共ニ築綱有り正徳元年五月
 廿六日拓政大臣徳一檢 金涌水 左のく松の下あり早とり人とも
 水軽くして筆の場不可なり
 家照公の伝記と 共ニ高泉の
 観音音巖千佛堂 伏見のめへを籠々たる野徑ありとて修く小民村あり秀吉の治に成
 るり大名屋浦法職入賣人軒坊ははらひ町小浜の市なり 郡へ貨
 物を通して交易をさへたり 野山里澤田とせ
 故人の記に在り
 山 松のくけよりさへてをいぬる田而不社をせりく 俊成

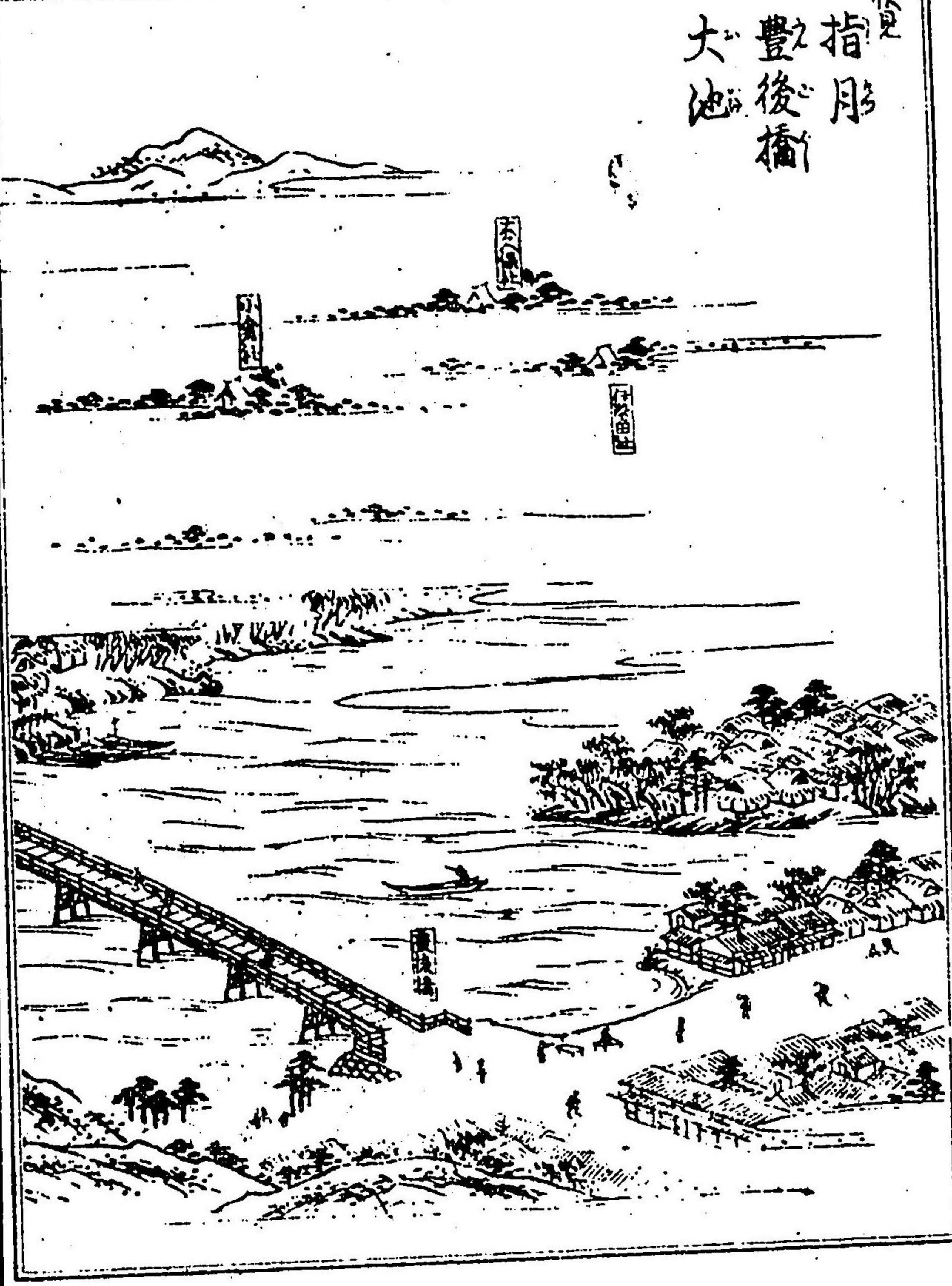
新築の山 松のくけよりさへてをいぬる田而不社をせりく 俊成
 里 松のくけよりさへてをいぬる田而不社をせりく 俊成
 胡戸 松のくけよりさへてをいぬる田而不社をせりく 俊成
 女 松のくけよりさへてをいぬる田而不社をせりく 俊成
 田井 松のくけよりさへてをいぬる田而不社をせりく 俊成
 城山 松のくけよりさへてをいぬる田而不社をせりく 俊成
 我衣 松のくけよりさへてをいぬる田而不社をせりく 俊成
 城 松のくけよりさへてをいぬる田而不社をせりく 俊成
 梅溪 松のくけよりさへてをいぬる田而不社をせりく 俊成

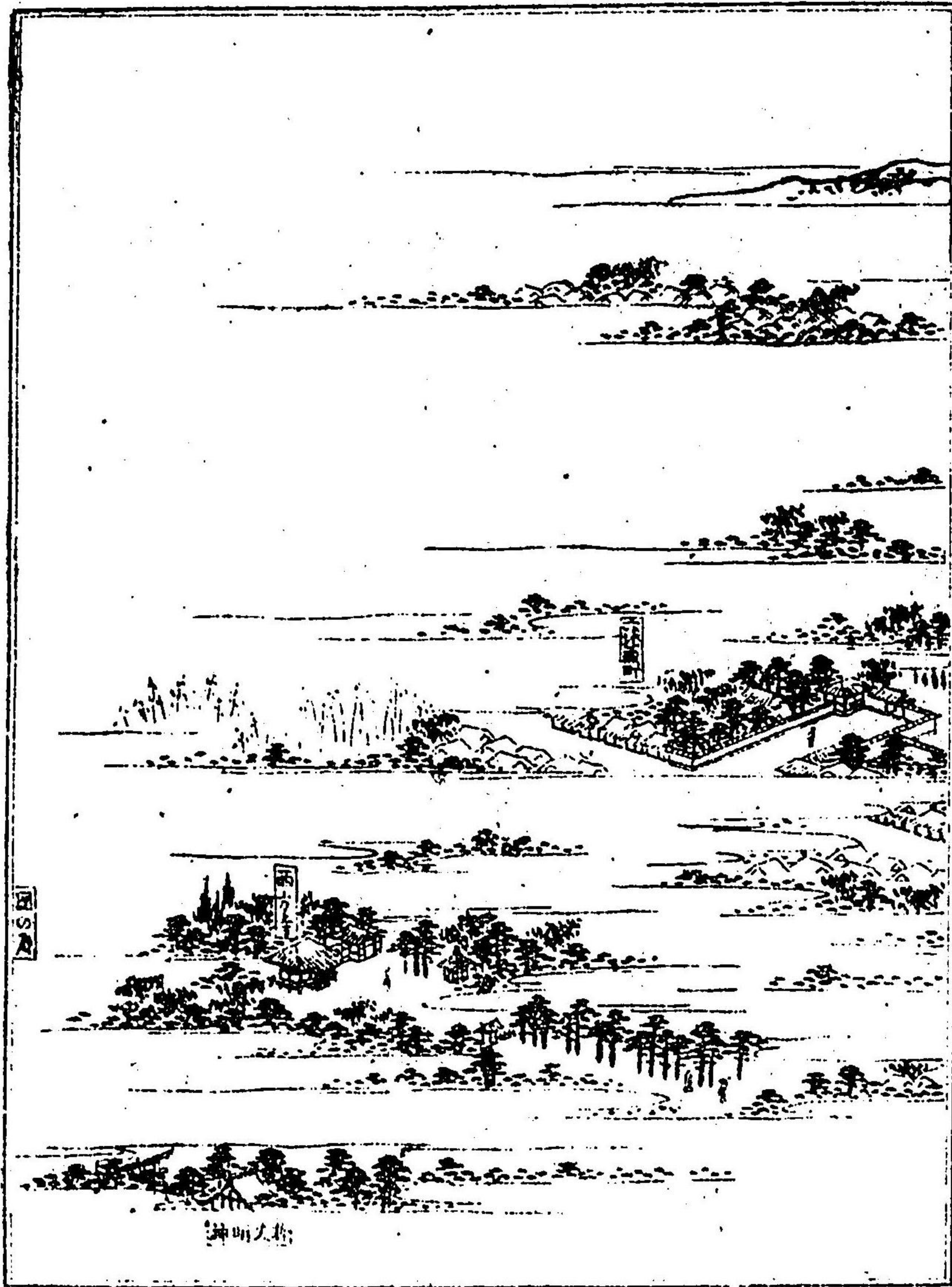






依
指 月
豐 後
大 池 橋





神明大社

四ノ



六地藏
本幡里
弥陀次郎泊跡

三ノ

四ノ

五ノ

檀河橋と六地藏所の中小ありは橋のありの丈に街道ありて金谷通り

五ヶ庄に在りて宇治橋と申すは今も其の跡ありて今も會津の街道に

小園より南に宇治川と申すは今も其の跡ありて今も會津の街道に

新出くぬきと申すは今も其の跡ありて今も會津の街道に

琴平山と六地藏の良日野は西にあり

本幡里の六地藏の南に有るは漢薬師不焼地蔵は里に東側あり

山城のまじりて里にありて今も其の跡ありて今も會津の街道に

本幡山は北にありて今も其の跡ありて今も會津の街道に

から人にて記すは里にありて今も其の跡ありて今も會津の街道に

本幡山は北にありて今も其の跡ありて今も會津の街道に

から人にて記すは里にありて今も其の跡ありて今も會津の街道に

本幡山は北にありて今も其の跡ありて今も會津の街道に

本幡山と六地藏の北にありて今も其の跡ありて今も會津の街道に

遠くは伏見の里の園守の本幡は今も其の跡ありて今も會津の街道に

柳大明神の本幡里にありて今も其の跡ありて今も會津の街道に

園屋と本幡の西に宇治川のありて今も其の跡ありて今も會津の街道に

日々に園の屋敷と申すは今も其の跡ありて今も會津の街道に

長明方と記すは里にありて今も其の跡ありて今も會津の街道に

西方寺は院次郎にありて今も其の跡ありて今も會津の街道に

本原山當國院の東にありて今も其の跡ありて今も會津の街道に

して邪見放逐はと申すは今も其の跡ありて今も會津の街道に

額不當て退放は僧と申すは今も其の跡ありて今も會津の街道に

明寺に入ると堂内に釋迦の像と申すは今も其の跡ありて今も會津の街道に

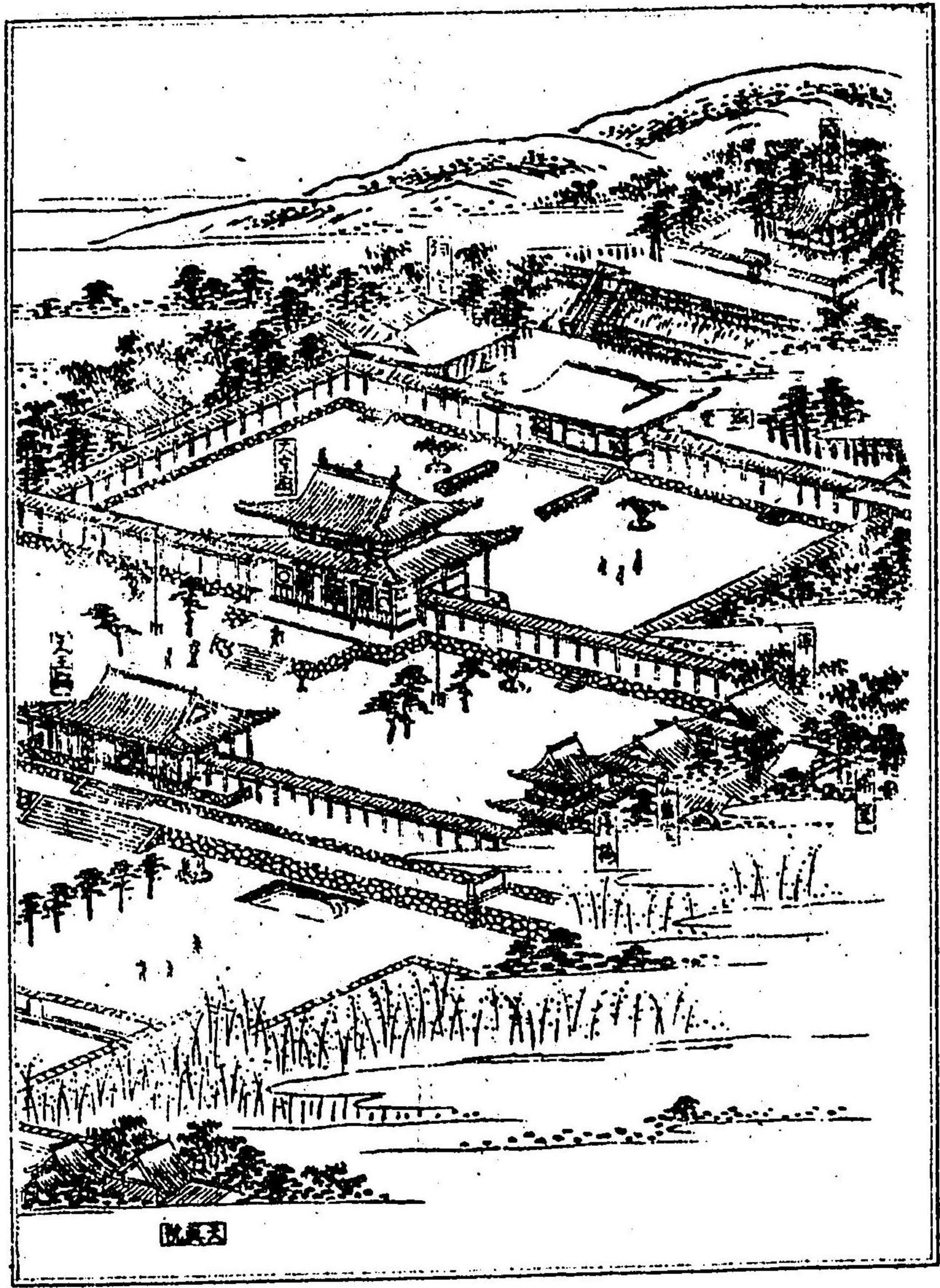
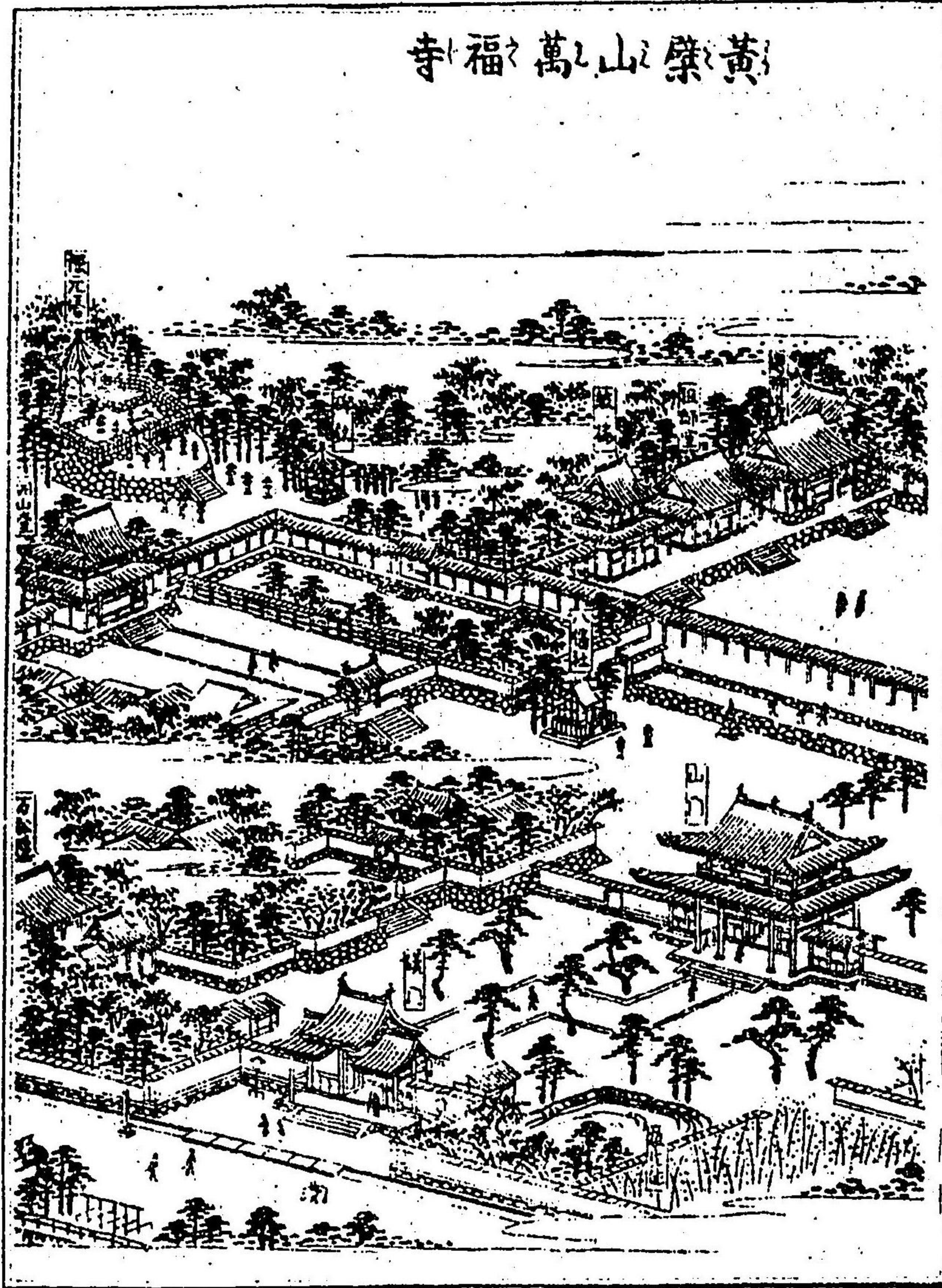
發して佛道に入ると今も其の跡ありて今も會津の街道に

ふ紫金山は佛像と申すは今も其の跡ありて今も會津の街道に

修行して遠く二人も同日同林と申すは今も其の跡ありて今も會津の街道に

修行して遠く二人も同日同林と申すは今も其の跡ありて今も會津の街道に

黃山萬福寺



黃樂山萬福寺の五箇庄に南あり岡山隠元和尚大明福州福清の公
 一七姓の林氏諱隆琦字の隠元あり本朝承應二年小東渡一萬治二年
 公命ふりて山城國宇治郡大和郡に勝地を賜ふ寛文元年九月より
 藍草創し精舎を經營多く異風を摸し名を黃壁といふ十二年四月
 二日後水尾上皇より大光普照國師の號を賜ふ

漢門 宗經は道重師承
 聖主賢臣を仰る

祖存象真天慶大
 門在頭煥日持華

大道後遺樹進直登兜率殿
 法門を内外觀身投入梅檀林

福地鐘靈特感四王護國
 門現瑞大鼓の音入

天王殿 威徳 莊嚴
 天王殿のくま
 威徳 天王殿のくま
 莊嚴 天王殿のくま

首村兜整威感三沙功
 初校翁持護持正法徳難磨
 大雄寶殿 釋迦佛の聖徳
 寶殿 釋迦佛の聖徳

徳 紅牡丹山没長生
 紅牡丹山没長生

法堂 捧唱交馳國師千古猶生
 東松園繞雲山舍儼然
 威徳殿 天王殿のくま

仁明昭日月
 我徳真四河
 山河 威徳殿のくま
 正氣 威徳殿のくま
 祖師堂 威徳殿のくま
 選佛場 威徳殿のくま

大願堂 加藍堂
 加藍堂 威徳殿のくま
 食堂 威徳殿のくま

開山堂 舍利殿
 舍利殿 威徳殿のくま
 天刑壽藏長生
 北陽松園不老春

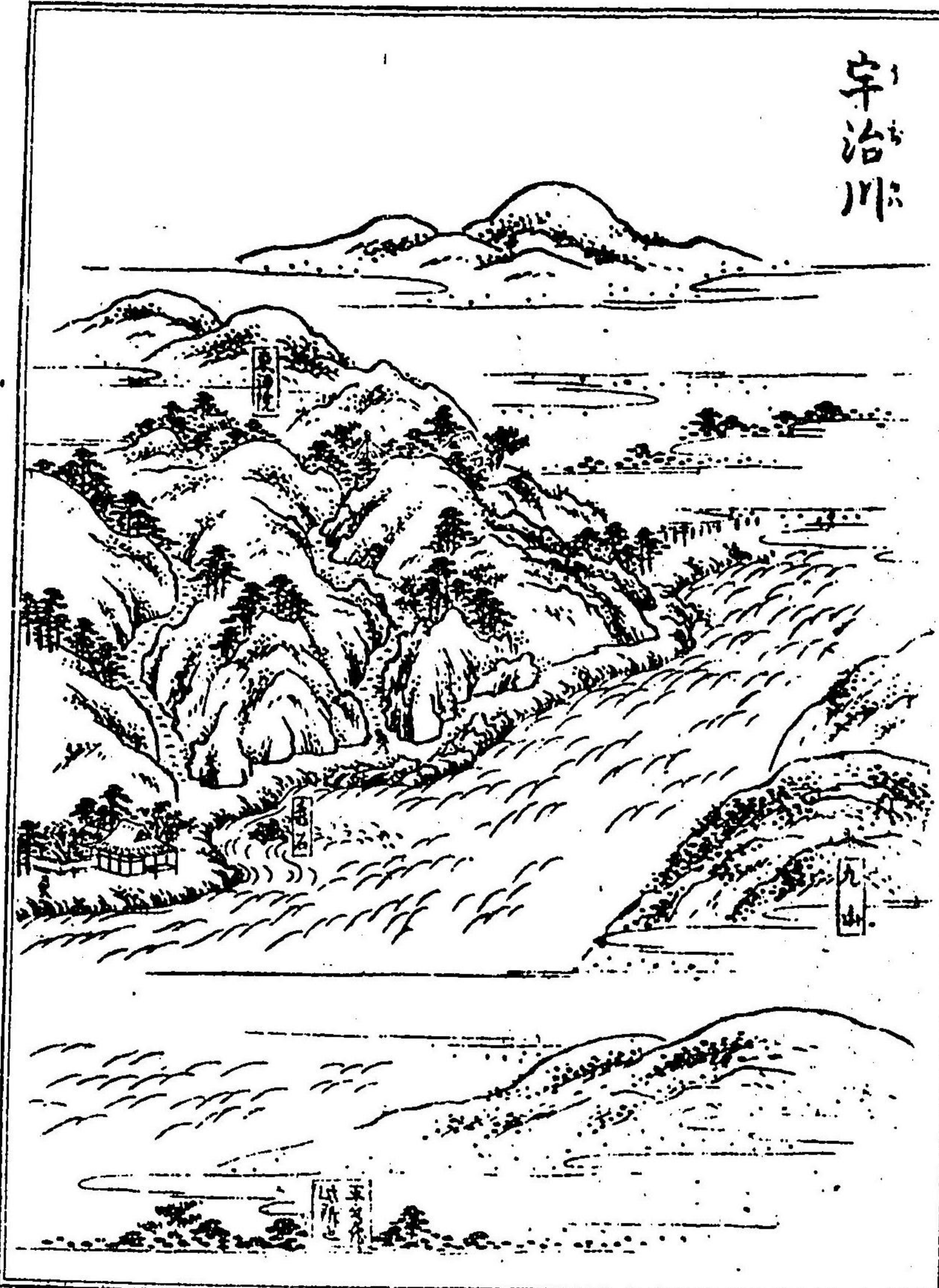
隱元碑銘 威徳殿のくま

都の茶屋は山に
 茶の名産ありて
 高貴に調進未だ
 の例ありて製法は
 殊に妙なりと
 云はれり知のた
 りともしりて茶桶
 とて山にのり
 の女はたてて
 りてた赤た前
 ぐれと腰小籠
 して茶園ふ入り
 幸ありしとて
 びらるる流いて
 無しとてありて
 陸羽の茶樹を
 書遺しや



木のくわく
 茶桶も
 子規

宇治川



定頼
寂蓮

花の色のおしなれぬ水もさながらの白くらの白くらの白くらの

ちりちりの秋の空の雲の白くらの白くらの白くらの

橘の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の

橘の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の

橘の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の

橘の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の

橘の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の

橘の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の

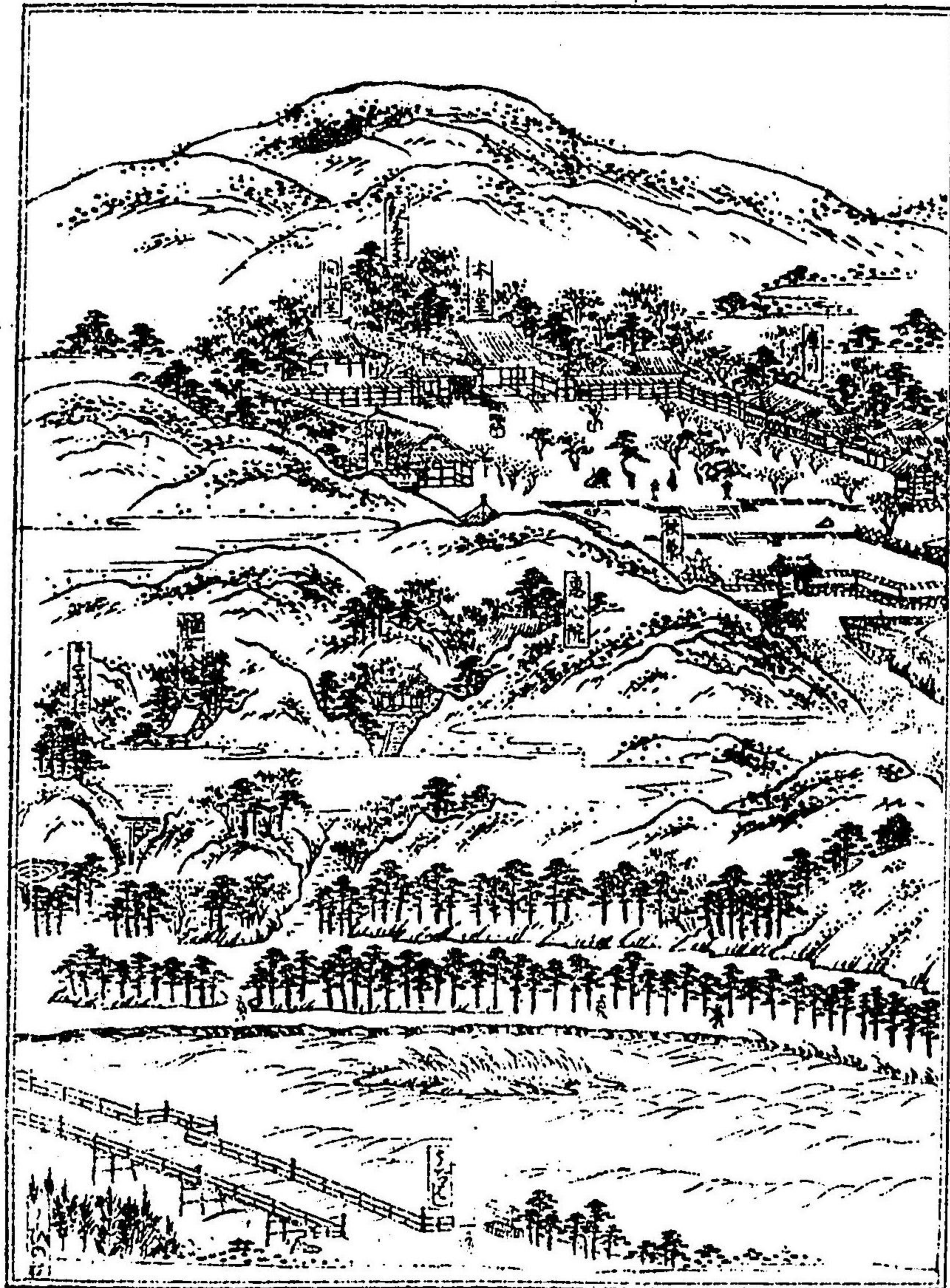
橘の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の

橘の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の

橘の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の緑の葉の

光佐

志上重重



家
 島津の
 小面
 河上野村
 とんちん
 よき
 いそわ
 りれ
 愛の
 ねり
 ちん
 玉江の
 芦れ
 み
 孫三佐松政



植嶋と宇治橋より乾八町とくりふあり

宇治橋より豊後守とて五十四の道あり
ふは植嶋とて入は四の道は目下とて

等の子村あり上はより(左)の
舟よりゆりまはし

宇治河の川休もえとぬる舟の舟人舟より入あり 基光

は風れ夜をのちうらとてし月かをあらはに橋の橋人 為道

橋娘や一海に宇治橋の西はえあり 今礎存せり

よむ一海に宇治の川とてし月かをあらはに橋の橋人 漢人よは

此の評説とていふ神とて神中おは信言大の神橋の神小あり

泳の入ありとて清浦神説みつらふの神の神を娘と佐保娘と

田並とては一日妻の橋娘とていふとて一条神國の神説み神宮の神夜

舟通ひとては時毎とていふとて一海の川とていふとて

嵯峨天皇の神説みとていふとていふとていふとて

は神の神とていふとていふとていふとていふとて

いふとていふとていふとていふとていふとて

よとていふとていふとていふとていふとていふとて

なりはあはれとていふとていふとていふとていふとて

造院殿の神説も清浦宗祇のつ所は一佐保娘龍田娘橋娘とていふとて

とていふとていふとていふとていふとていふとて

わはれとていふとていふとていふとていふとていふとて

橋娘とていふとていふとていふとていふとていふとて

浮舟橋と橋よりとていふとていふとていふとていふとて

鶏飼娘と浮舟橋よりとていふとていふとていふとていふとて

うらし舟とていふとていふとていふとていふとていふとて

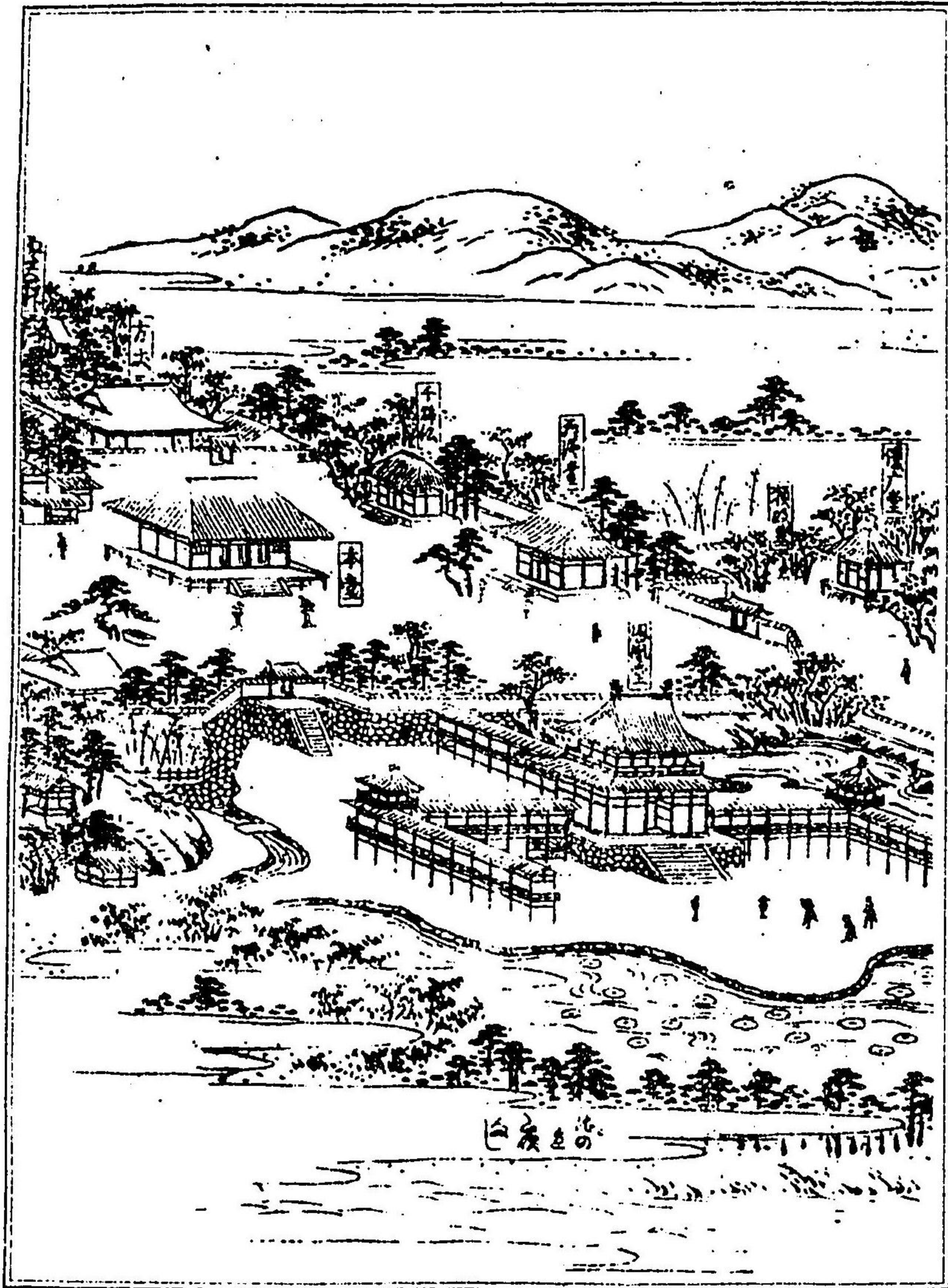
植尾山と橋より南ありとていふとていふとていふとていふとて

あはれとていふとていふとていふとていふとていふとて

あはれとていふとていふとていふとていふとていふとて

あはれとていふとていふとていふとていふとていふとて

あはれとていふとていふとていふとていふとていふとて



待中群妻小の城圖
 才流の麻細代より
 日毎ふ粘魚で進る
 とるんはうし今も
 は切るくははの
 びの粘はえ平寺
 ぼん十町ころり
 川上越川のつもの
 やうらふそんはる
 の肩さふまは
 半次でせうの粘
 ぬ上く興と封
 した李白詩ふ
 野戸厨と舞と
 したはのの
 換くたてて



入氷色ととる
 毎年九月より
 十二月とふん
 貢よ花鳥餘
 樹ふんころり
 粘るしぬ
 舟
 くら川の
 細代本
 かなくの
 ひさし
 つるん
 後人あは



宇治田原名村
煮栗焼栗林





就鷲峯山金胎寺を和東郷内ふむ村の巖あり 宇治田本郷より一里半あり 天武

天皇の御宇白鳳四年九月に役優婆塞いふまゝ天皇の靈柩をよみ

心の鎮へ八葉に蓮華を表し釋迦嶽阿陀陀嶽弥勒嶽寶生嶽阿閼嶽

虚空藏嶽不空嶽妓樂嶽と號し巖頭を坐して修法せり五七日あり

是當山の用基と云其後元正帝の御宇孝老六年小越の白山の行者春澄法師

役芳沙弥慕つて登山し七堂伽藍を造りて 後世に傳へて今

今尚存なり 本堂より弥勒佛と尊像あり 行基の御宇に

多寶塔を造りて 行基の御宇に 用山堂自化役行者像を安置し

社 鎮守石は日本金柱福滿推現八幡宮金剛童子と劫後空鉢峯ハ

當山の総頂あり寶蓮印塔を造り北斗星に所奉澄法師の所あり

法の耐石上坐し虚空を鉢と投りて空鉢雲中を飛越すの事載る今

歸る春澄入寂の後鉢を以て埋て空鉢峰と名けり 世の靈の所

當山東北山脈を役行者春澄の二師密法修行の靈嶽なり 和州金峯山と

多輪東觀行通石千手勝一の勝と五光勝の勝なり

降三世龍 鐘懸 胎内潜 雲岩

舍利石 佛岩 水晶山 熊倉

天狗岩 龜石 兜率龍 老龍

加持水 馬足洗水 養生堂 後弘元年九月後醍醐天皇の

御時 此地の城の高きうて水の方へ帝徳園れ

中も此殿愛宕石の山嶺高く保右の方を琵琶湖の漫々水面

雲に連れて三上流の翠巒を旭と鮮なり方平のくくる志

駒金剛山茶天より西海の海系兵庫の洲崎崎崎見れ

のしる摩耶六甲山の高根も只け山護より一眼の中を

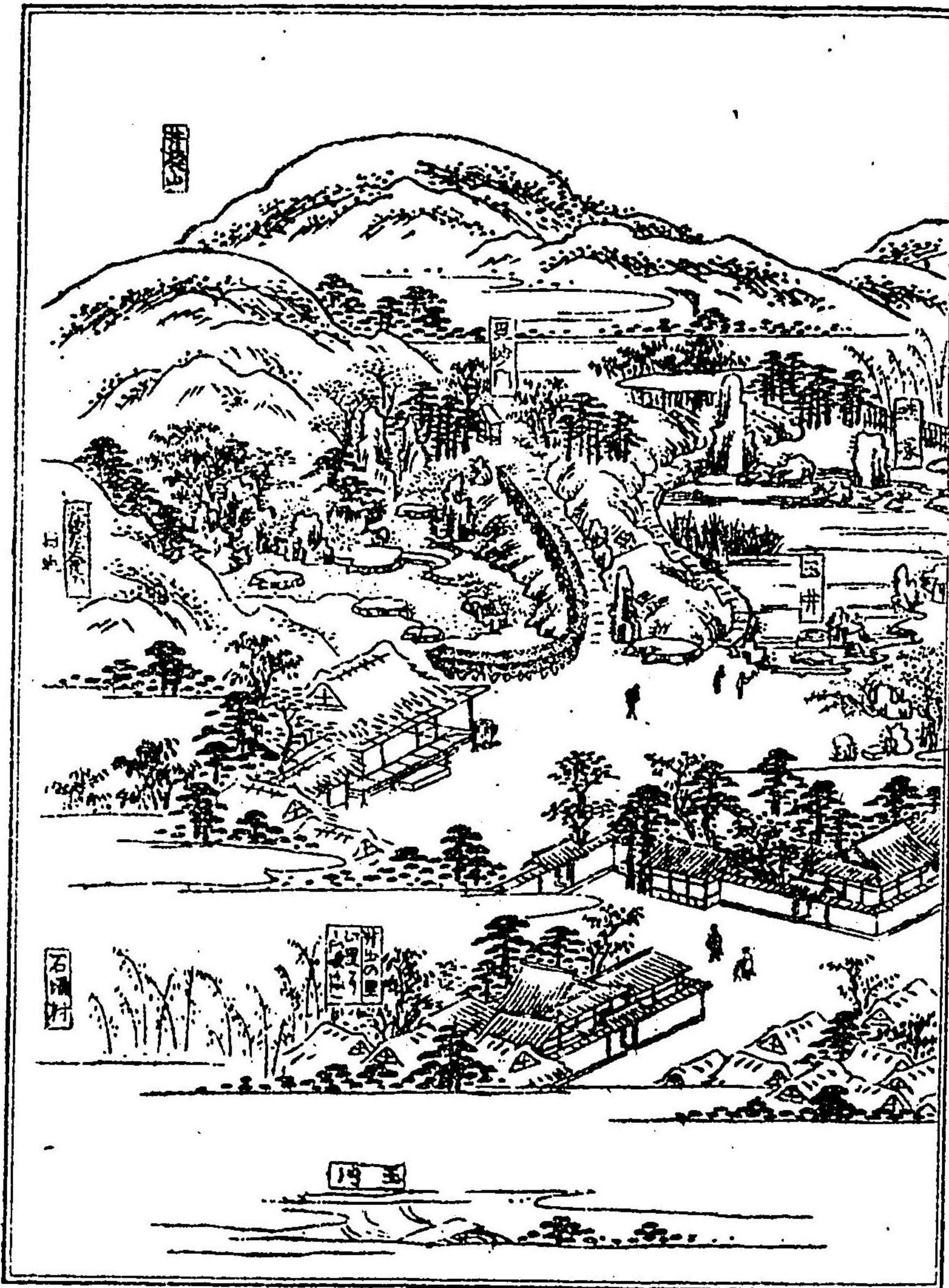
の客とありぬ衆山より秀て巖頭嶺々として撫まも海

老杉繁茂くくも白日を埋んて周し李白が天姥の吟ふ

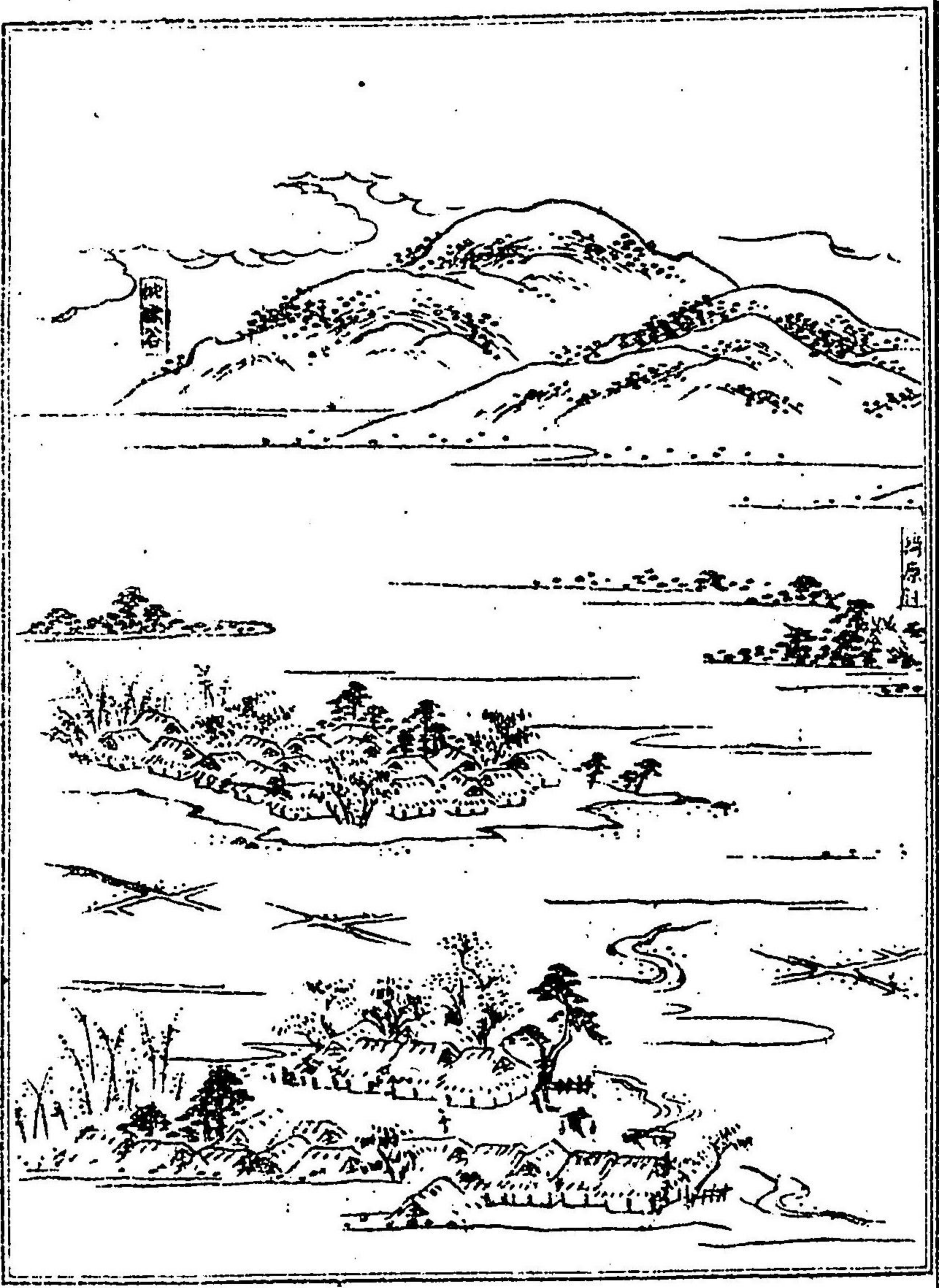
天台の四萬八千六百の相對と云



百丈山大智寺



高倉宮社
高倉宮社



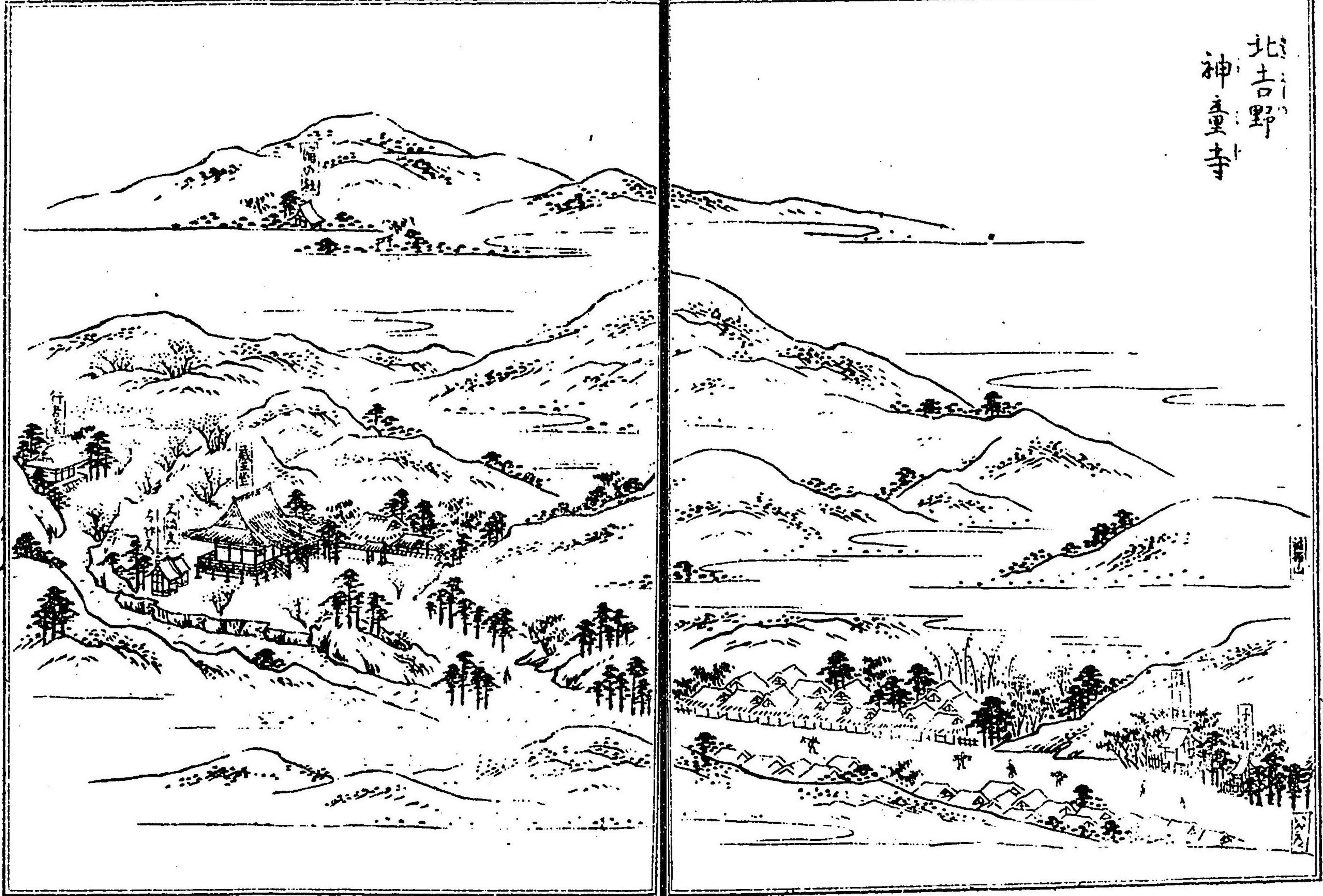
井堰の玉川の
名所六、玉川の
具一ツ物アリ
たふし諸兄公
いほ辺小茶葉
やほく極めい
より八重一重
咲かたれは面
小映して金盃を
つゝ〇〇〇〇小
あんんんんん

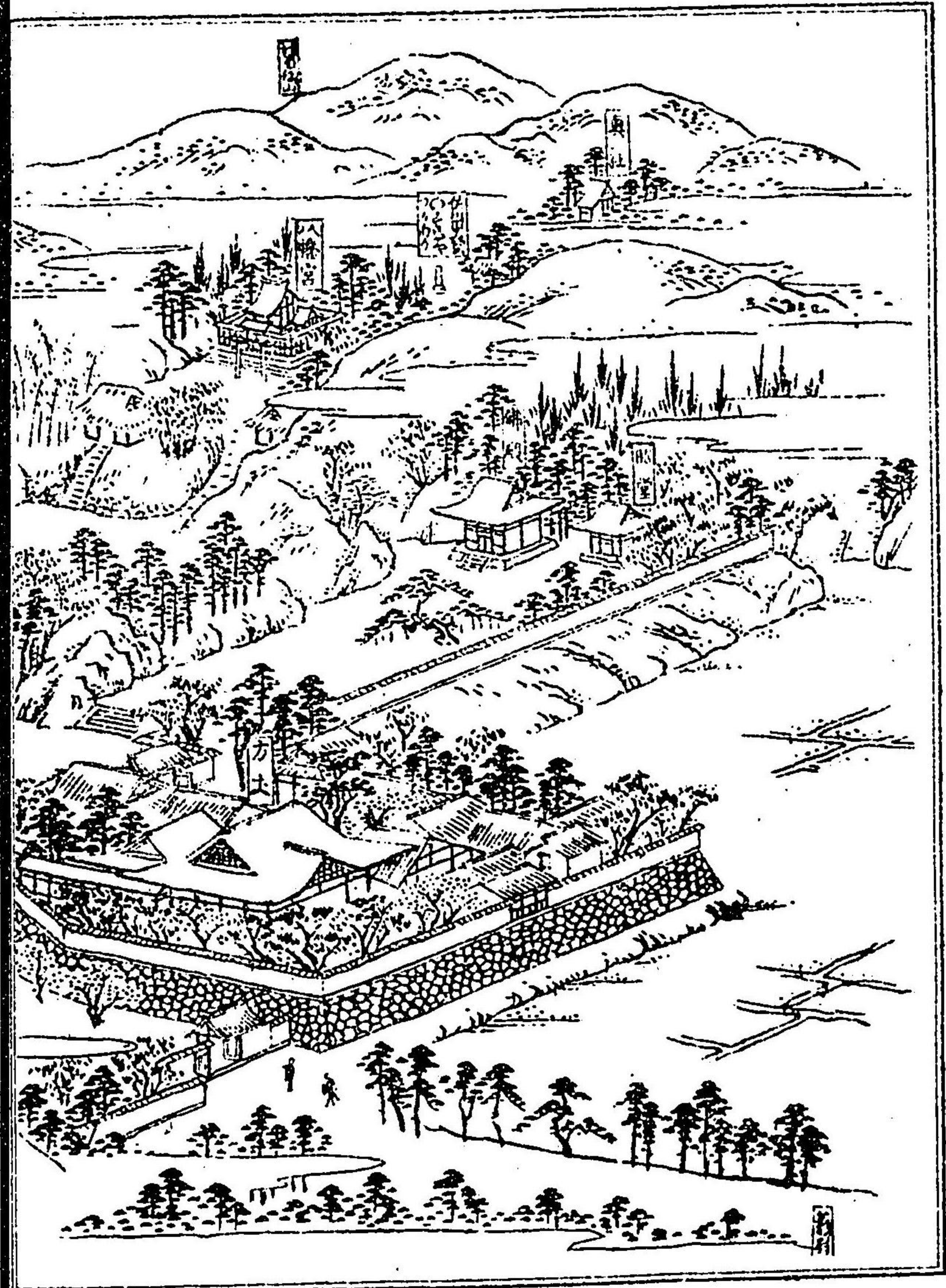


枯玉葉
長津
井堰の玉川
衣室あそ
ちととと
さしく
ふ映は花
玉葉
玉葉
井堰の下
あめり
あふせり
玉川の
後成



北吉野
神皇寺





妙勝禪寺の本津川は西新村あり 禪宗にて開基の文應國師正應年中

小神創一ニ休和尚康正の比ニ再興と佛殿は寺の禪を佛と安養殿開山堂と

大應國師は後安養一方より一休和尚に教を安んず 依川の古堂あり

酬恩菴の額 一休の比に遺骨を瘞む又常ニ推乃のいし多村あり

方丈の庭は依川田 幡宮堂當寺の西町よりありは所の地主神也

神南備山 水田あり 天神社 天神宮 天神社の西の傍ありある所也

長月のほれた糸のねまきくくいのまろととるおが 行家

段々良不動堂 御谷の上あり 大御堂 下村の西ありをきく一而たきん安ん

牛頭天王社 普賢寺の谷の上ありは里の 若王寺 下村の西ありをきく阿彌陀佛ハ春日日比

藏園山 普賢寺の西 祝園 下村の西あり 土師 祝園の南ありは里

本津川 一名泉川とて河海砂日泉川とて本津川とてはきく御谷の村の社の

本津川よりなる泉川とてはきく御谷の村の社の 本津里 里よりは里武蔵

本津川よりなる泉川とてはきく御谷の村の社の 本津里 里よりは里武蔵

本津川よりなる泉川とてはきく御谷の村の社の 本津里 里よりは里武蔵

本津川よりなる泉川とてはきく御谷の村の社の 本津里 里よりは里武蔵

本津川よりなる泉川とてはきく御谷の村の社の 本津里 里よりは里武蔵

本津川よりなる泉川とてはきく御谷の村の社の 本津里 里よりは里武蔵

本津川よりなる泉川とてはきく御谷の村の社の 本津里 里よりは里武蔵

本津川よりなる泉川とてはきく御谷の村の社の 本津里 里よりは里武蔵

本津川よりなる泉川とてはきく御谷の村の社の 本津里 里よりは里武蔵

本津川よりなる泉川とてはきく御谷の村の社の 本津里 里よりは里武蔵

本津川よりなる泉川とてはきく御谷の村の社の 本津里 里よりは里武蔵

本津川よりなる泉川とてはきく御谷の村の社の 本津里 里よりは里武蔵

本津川よりなる泉川とてはきく御谷の村の社の 本津里 里よりは里武蔵

海修山寺



相樂里と本津の坤土師の南のり 相樂里は本津の南にあり、坤土師は相樂里の南にあり、南のりとは南を指す。

朝光 朝光は朝の光を指す。

鹿背 鹿背は鹿の背を指す。

念佛石 念佛石は念仏の石を指す。

一の坂 一の坂は坂の名を指す。

狗里 狗里は狗の里を指す。

高麗寺 高麗寺は高麗の寺を指す。

泉橋寺 泉橋寺は泉の橋の寺を指す。

航原 航原は航の原を指す。

真田川 真田川は真田の川を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

真田川 真田川は真田の川を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。

舟の杜 舟の杜は舟の杜を指す。



恭仁の都は旧地(熊原)の西鹿背山のやうなり

始に官城築造り帝行幸し一の八寶世の西の通よりなる

左村(西)より東とせしり(熊原)本にこそなり

吹風みむしとのまをふらんふれ都にあらん

泉のつより人のとと絶てふの都もあらん

流園(熊原)の西か茂の渡れり

聖武帝(敏達)の御代に八所(熊原)に御宇に

加茂のやしの御代に鴨村(熊原)の道の傍にあり

鴨川(熊原)の別名なり(熊原)の流にあり

布當山(熊原)の西より一隔山(熊原)のやうなり

古郷(熊原)と遠くしめしり(熊原)の流にあり

高岡(熊原)の川

鹿路山(熊原)寺の本津川のの上を置の(熊原)あり

五月雨(熊原)の(熊原)の流にあり

當(熊原)の(熊原)の流にあり

駿馬(熊原)の(熊原)の流にあり

進(熊原)の(熊原)の流にあり

建立(熊原)の(熊原)の流にあり

本堂(熊原)の(熊原)の流にあり

三月堂(熊原)の(熊原)の流にあり

弥勒石(熊原)の(熊原)の流にあり

薬師石(熊原)の(熊原)の流にあり

千手崖(熊原)の(熊原)の流にあり

楠書(熊原)の(熊原)の流にあり

胎内挑(熊原)の(熊原)の流にあり

護摩壇(熊原)の(熊原)の流にあり

貝吹岩(熊原)の(熊原)の流にあり

漢川徳法の射野の事 榎本神 鐘樓 解脱上人 巽工より同法檀よ依は
 銘二曰 蓋置山般若基建之七年丙辰八月十五日 般若基 後橋の北山あり解脱
 大和尚南無阿弥陀佛 釈迦の 解脱上人 塔 八町よりあり後橋にて 千手瀧石正童子龍金剛
 童子龍 巽作のありたり 後醍醐帝の皇居を當ふの巖より奉九二の九
 の後正師石流勒石の上の平たまり楠正成もつゝ又て始て沖味方といへ陶山
 小見ふく夜待せし所をいふの背より小の方なりなり 般若大の巖をいふを
 鳥も翔くく古松枝と雲倉若無きありり 権龍の泉川と事て白浪巖と事
 く勢ありて水流の委曲驚蛇小似りり 別々の勝地より千歳秀と競い
 壑 依 依 争 入 ころと水の流るるついで
 栗栖天神宮 蓋置山の麓人家の西よりありあり所は天満天神と足立蓋置寺の宇後
 飛鳥路 蓋置の北十余町ありあり山は北に公はゆるり 有市 飛鳥路の北よりありあり
 大河原 有市の西よりありあり所は橋入和 伊賀寺の園地あり

みやこし名水園云 巻六

都名所圖會卷之六目錄

後元武

下加茂
葵系之系
岩本社
所美藤池
行遠土手
北岩寺
本良坊社
暗部山
靈源寺
藥師寺
岩門

御牛洗川
懸馬圓
松ヶ崎
地藏堂
八地園
智辨水
ふごぼろ
帆立石
神免院
香ヶ峯
光悦寺

河合社
上加茂社
本洞寺
幡枝圓通寺
長谷八幡宮
鞍馬寺
竹伎界
大悲山
正傳寺
法善檀林
千束

紀川系涼圓
橋本社
妙泉寺
市京小町寺
朗祿谷
僧正谷
貴船社
西加茂
送火船
源光庵
題目堂

| | | | |
|--------|-------|-------|-----|
| 菩提園 | 岩屋山 | 小野道風社 | 冠石 |
| 紫野大徳寺 | 今宮社 | 常盤前古跡 | |
| 義経誕生水 | 舟園山 | 蓮臺寺 | |
| 今宮御旅 | 金山天王寺 | 七の社 | |
| 清和院 | 立本寺 | 釋迦堂 | |
| 引接寺 | 轉法輪寺 | 七本松 | |
| 北野天満宮 | 内野遊女町 | 東向觀音 | |
| 大園茶湯田地 | 願成就寺 | 平野社 | |
| 金剛寺 | 衣笠山 | 鏡石 | |
| 芙蓉池 | 龍安寺 | 真如寺 | |
| 双園 | 兼好古跡 | 法金剛院 | |
| 御室仁和寺 | 花盛園 | 大内山 | |
| 印金堂 | 泉谷法藏寺 | 西壽寺 | |
| | | | 般若寺 |

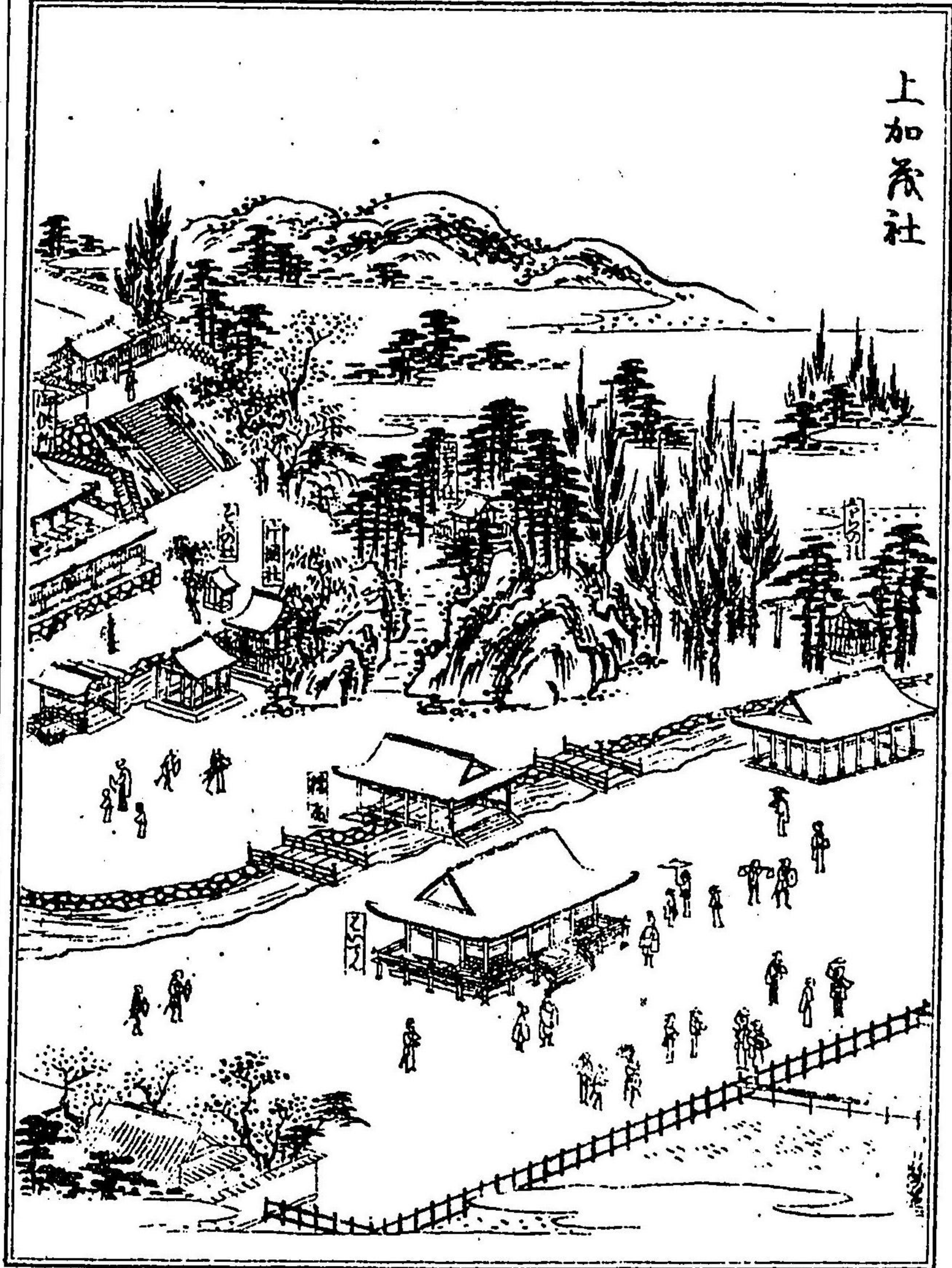
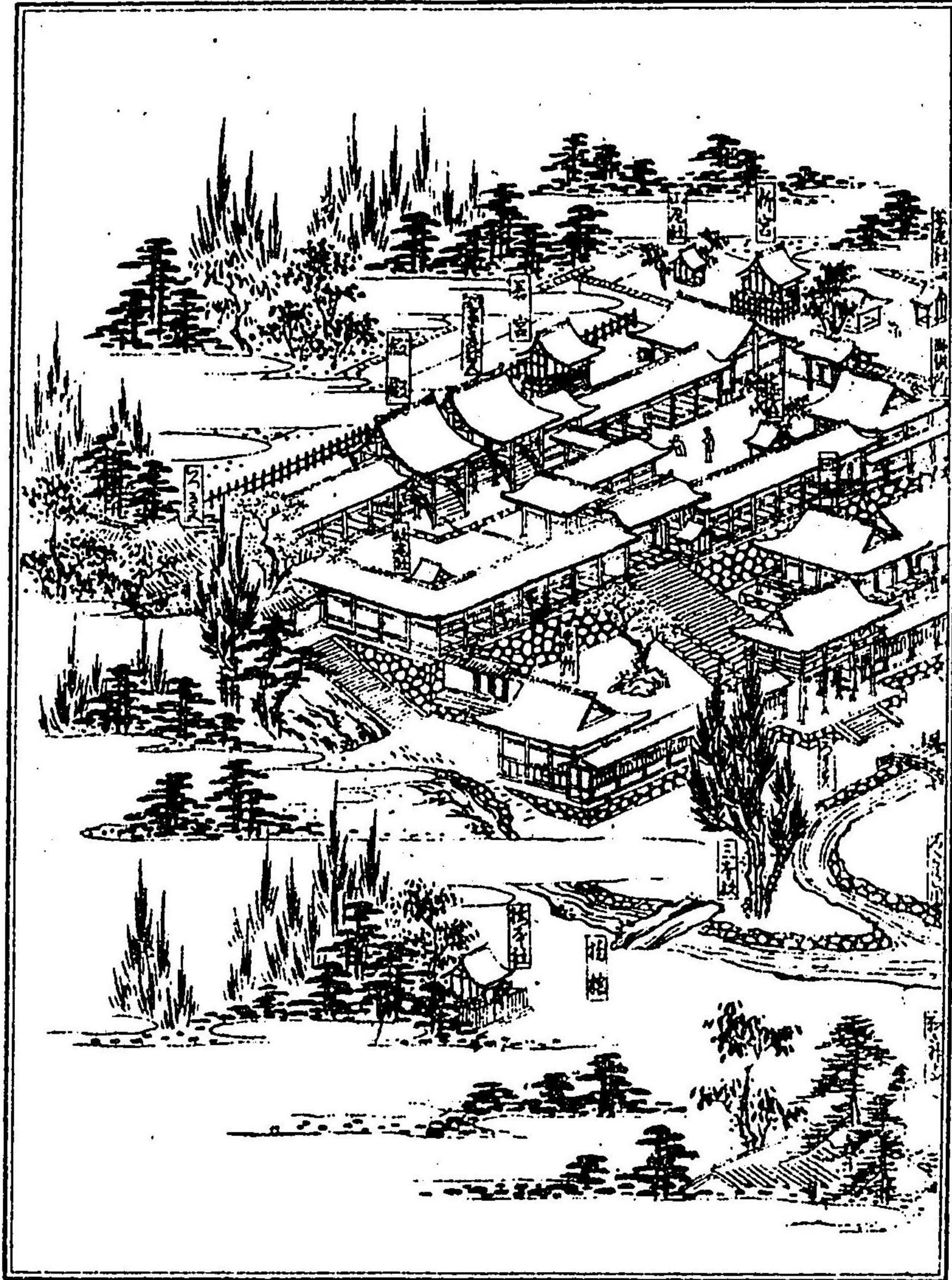
| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 三宝寺 | 五智如來 | 宅魔塚 | 平園八幡宮 |
| 梅畑善妙寺 | 柵尾専山寺 | 柵尾西明寺 | 高雄神護寺 |
| 清瀧川 | 地藏院 | | |



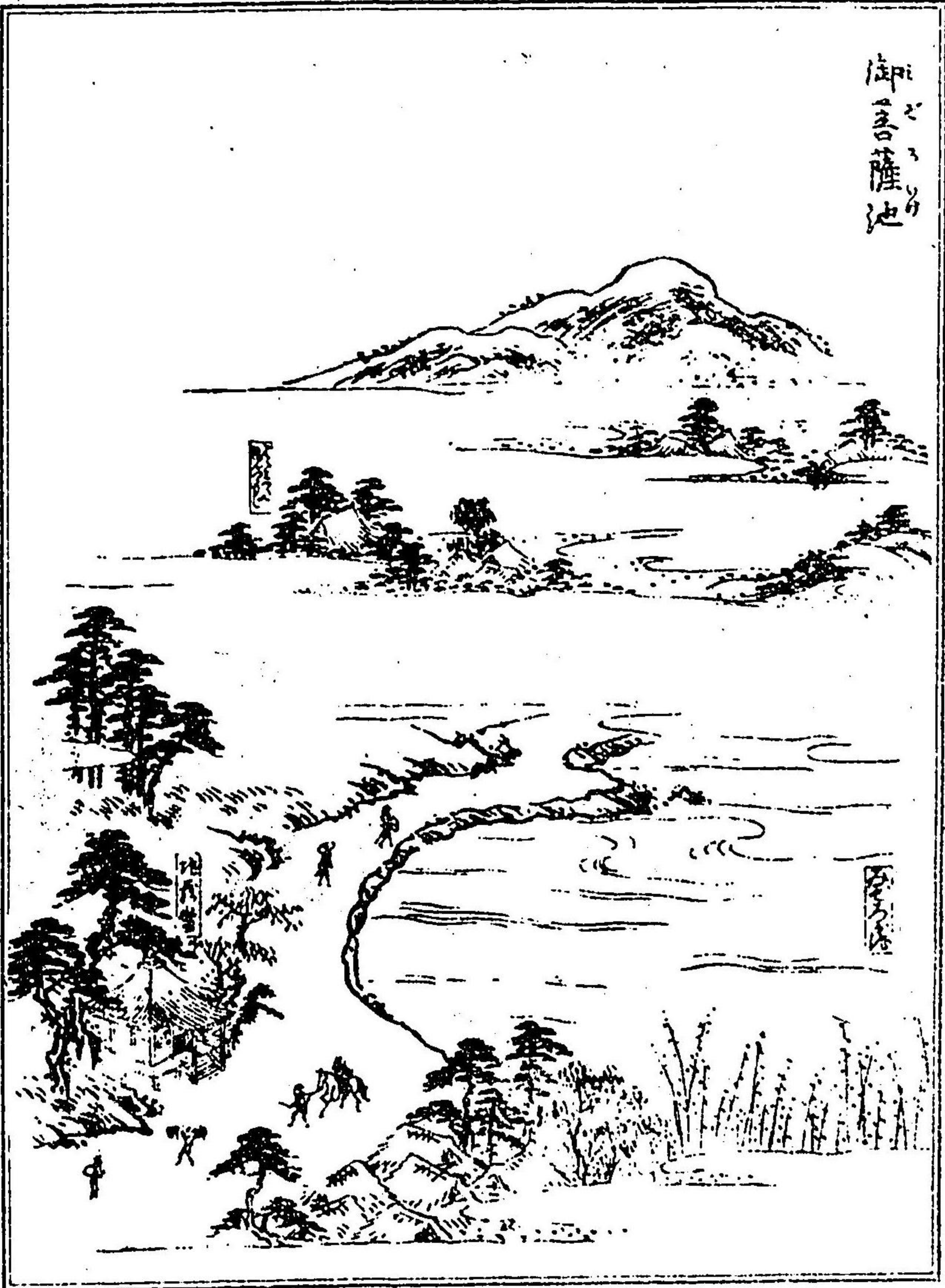
橋の小川を
清く流すの
「名ふ」く
奈波社の
うしろに
細川を
わき流
船そとく
向ふの
小川に
夕暮る
みそを
まの
まの
まの
まの







御菩薩池



松崎本涌寺の園基日生上人より七日蓮宗流より大正年中に法華園純
 い字室とるぬれ泉の日係上人れおくれりいし折あしてはふなり
 毎来七月十六日堂の主人少てけ里の老若男女より左方題目より
 けけ聲抑りしく拍子とり踊るなり是るん松崎の歌目ねりて
 名ふるし其夜うしあのみふれりぬ法の二字と焼火にれし
 會の送火とてなり
 所善流池の幡枝むれりて備り地蔵堂あり平相園法盛の代西光
 法師のいふみしやとて六地蔵のの其二なり
 多京の普陀洛寺のありへ清原宗若父の幽棲のありて有地いそり
 五宗のくくあり堂の若くして後白川上宮大京の女院と訪りては
 所城通り普陀洛寺小所奉のりありのありて小所小町四段お
 の墓ありあり人多京野を過りてはとて一むしけりあり
 秋風の吹りけりてもあめく小所いりて落れいなり 小町小町

市原山町寺



小名藏大寺寺の文台宗ありて寺の聖教世に傳はり行基乃他
 して作けるのくわい王様の小れきふは世のたさびく所あり流人
 をあやむむよふて勅使して右近衛中将河原基成はつてんせめ
 中ふけふは頼朝り勅使不足儀小名いふふらち急務として
 香流つてんさる老尼現れ白地地いさむ教世も傳はりあ地と
 といふ異香四方に著しとる靈験あり足と窺ふといふも業を
 其中より親世まれば明赫くはる體成りあては地小休盛とて
 少して行基れ地りゆび一尊像成りあるとる大寺あり額に詔ありて
 佐理卿等成條すいあり今なきに同基の智多傳正あり出いふ
 を名藏とあふくるとる詔ありとる王様の四方にる藏といとるみ
 と納めらる其ありとる石座明神ありゆはるるあけゆあんあり
 八鹽固いじういなるの根成りて秋のまは紅葉とるる男婦を敷ふら
 ありは今の小の尾湯ふかあり



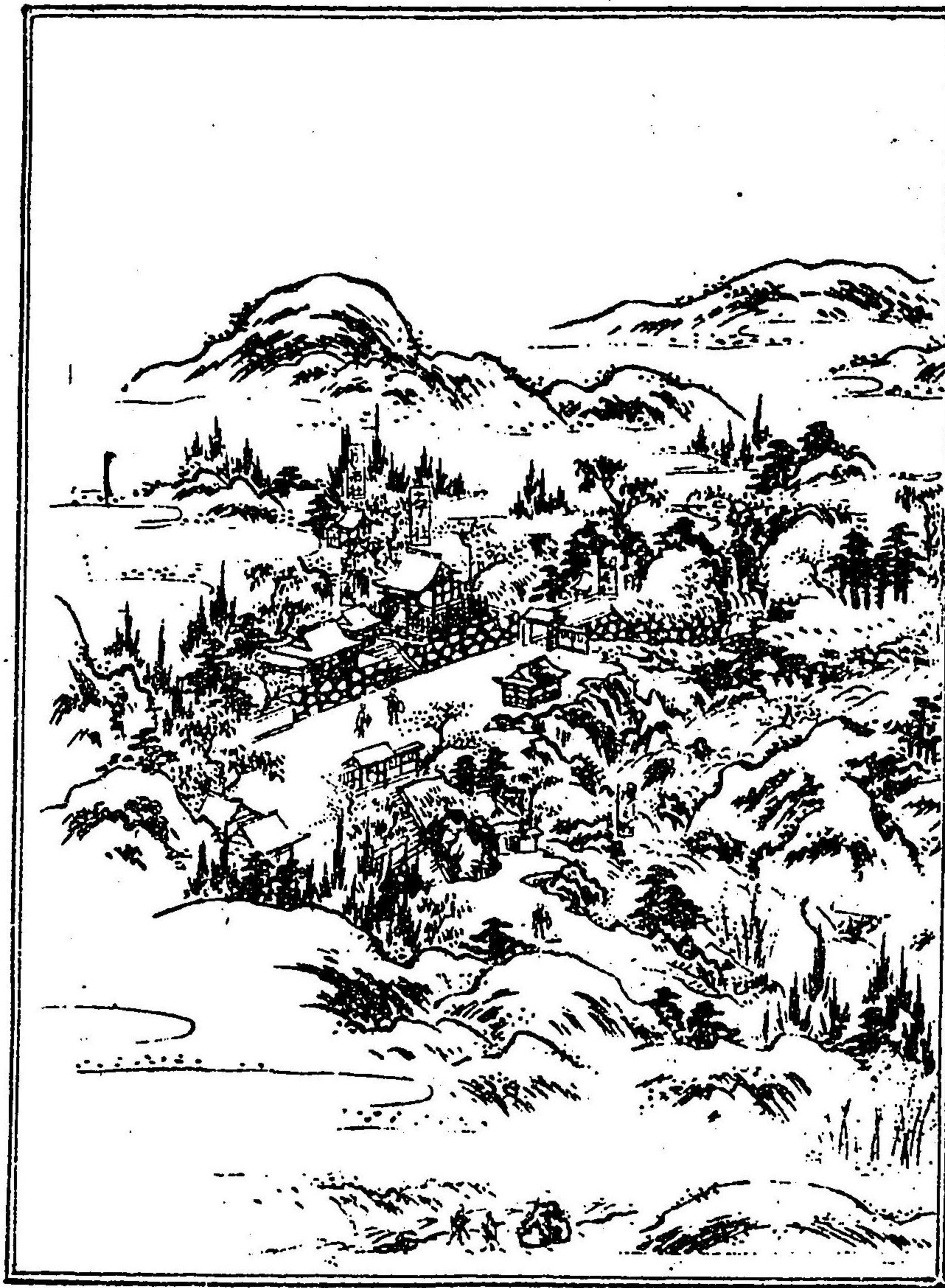
北岩倉大雲寺

本を此小よの淵水溜りて浦出分たたむるはえい竹と
 蛇ふるを人足依きりて摩成拂るるね又夜に人々集りて
 此中を居て一丸流流法力と云新穀一入り詰るるあつた僧人よの
 此海門天はる夜若るる夜を止むと云ふもあつた僧人よの
 多のりたねてのりて
 鞆明社にゆくはの氏神ゆて大門のうらみありて
 一産有り朱雀院の法時天慶年中に動信の由ありて
 少思ひの世のさうしたと云ふ社にのけらるる
 座石焼炭本茶漬はけは名考るる籠物ありて
 倉林たのりてまのりて
 是やこのまのりてはるる
 抽中抄に
 僧侶の源平の異人た過舎刺撃乃法をほくする人あつた
 九月九日

六月廿日
 鞍馬の竹伐



僧正谷まで
 佐一らみ
 貝ぬく
 僧よ
 のんこ
 具角





毎月七月
十六日
火
く
て
松
の
や
く
り
の
ま
つ
と
あ
ら
ま
の
ま
つ
と
あ
ら
ま
の
ま
つ



西加茂

正徳寺



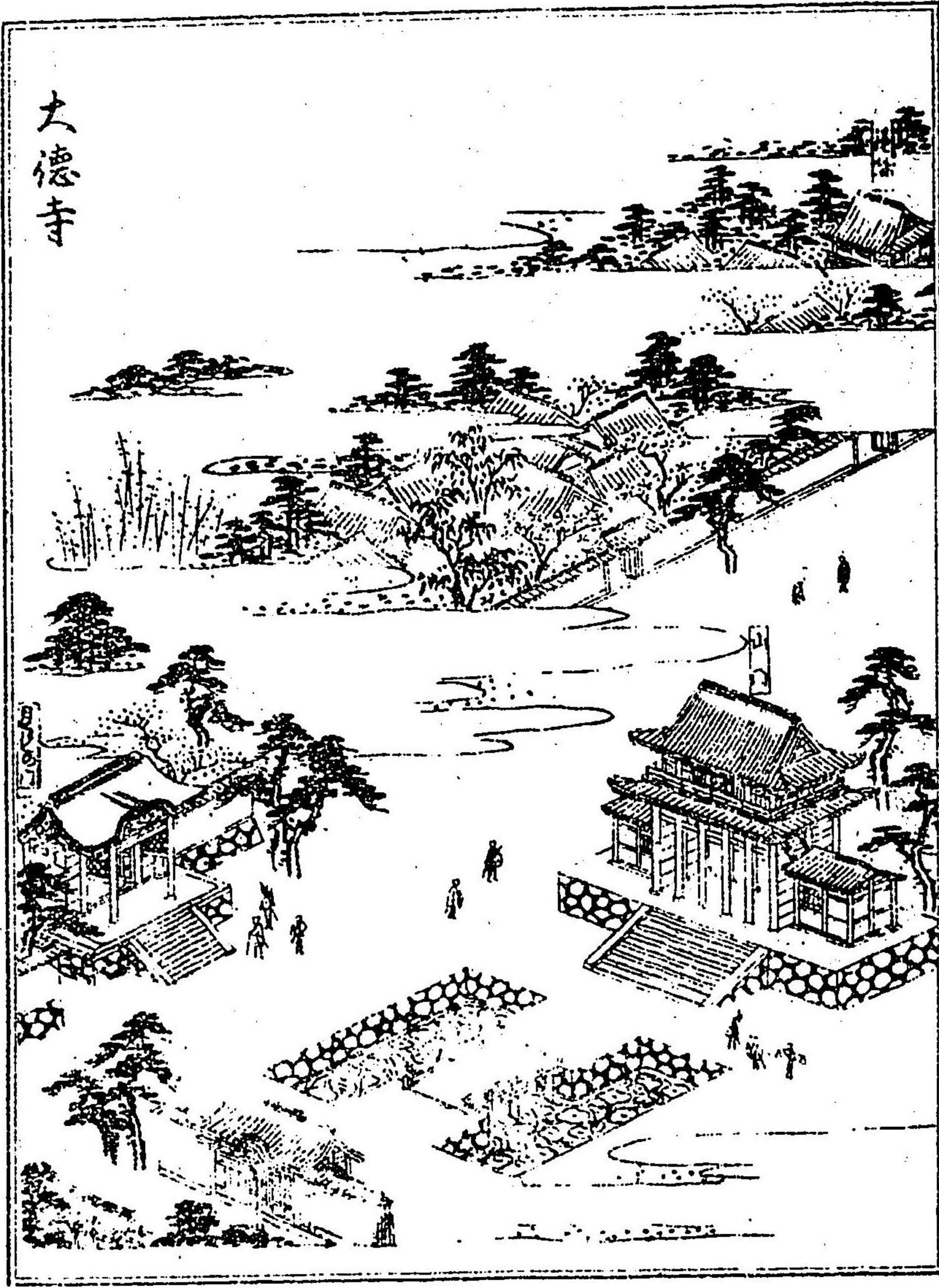
鹿島山

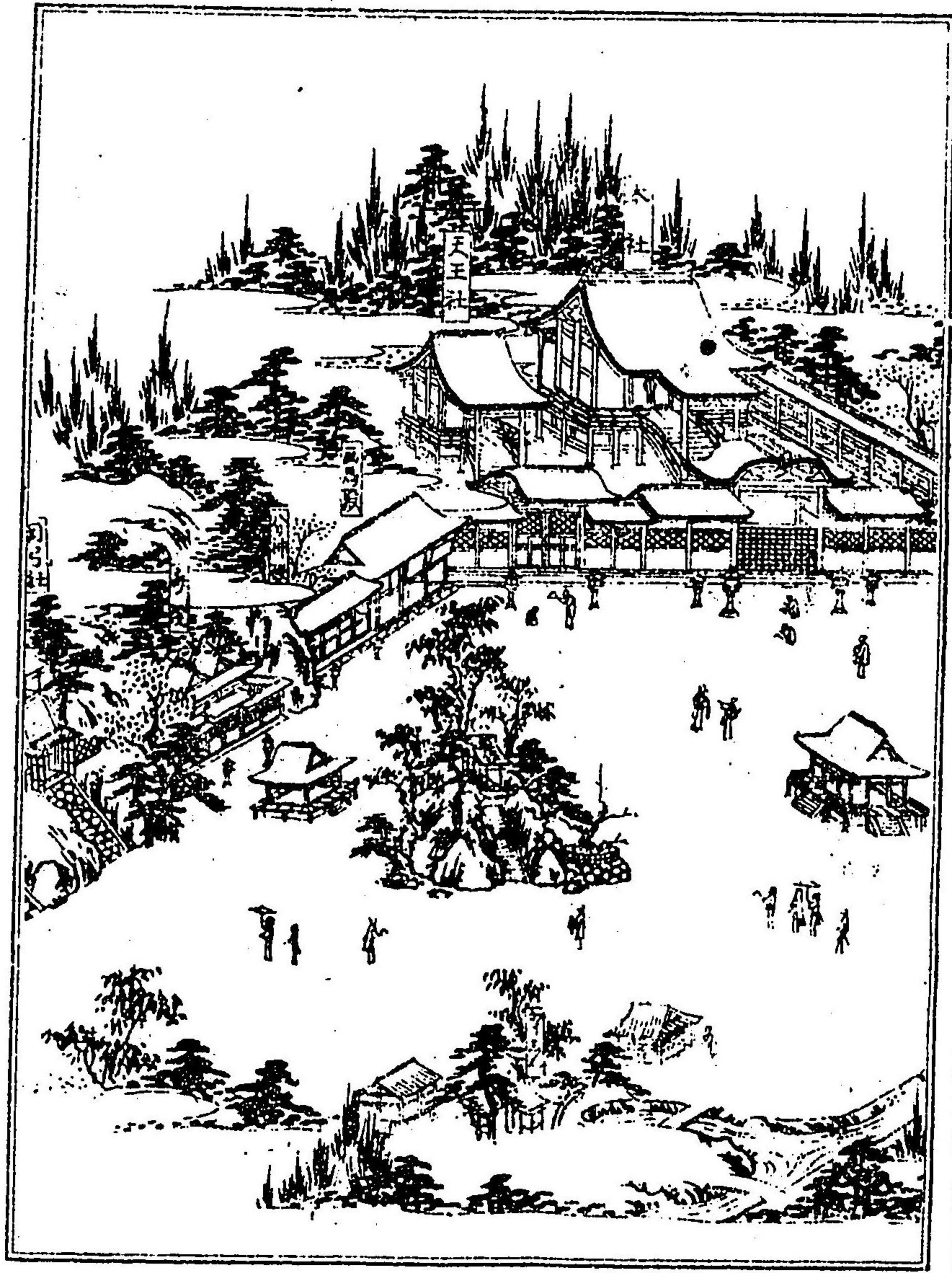
岩屋山金峯寺の偏樹峰の山あり奉尊の不動明王の位ふは
系王菩薩現しの中無量場之同基の後行者又弘法大師の位ふは
て密は成修しの中所より撰敷嶽の岩屋より一里ふりあり
ありて惟喬親王橋屋とてありし幽居ありし所あり
西加茂神光院の同基弘法大師より自他の像は安んずる本尊
愛深明王弘法の位は 此の事れ且の月日の日にて成れぬ所あり
御座を修り成りては他人の御座なり
同所靈源の後水尾法皇の御願にて同基の佛頂國師の本尊は釋迦佛の位は 殿壇の
後水尾帝の聖像又同の像は安んずる本尊は 撞鐘堂 大仏金仏の御首と
吉祥山正徳寺の同所あり禪少ありて同基の東岩室元禪師之
一山に楓樹多くありて紅葉はは千枝爛熳して楚岸三江と
ありしなり

船は送り火を正徳寺のうしろにありし例は七月十六日れ有に
け所より船の形小火を焼を西堂の送り火とする

薬師の草堂をむらして瑠璃光如來を安置しつりへは伽藍
殿重なりて傳教大師の位ありしなり
今居る
應尊峯寂光山常照寺の法華宗は権杖あり同基の目乾上人あり
日源光房の禪宗ありて此山和尙の同基あり
日光院ありは法華宗ありて元春の法光院の堂一所ありしなり
大虚房ありし羅山先生は巻の記をくける
五と文苑
日経目堂は奥あり常行を日と唱へてめざるなり
石門を築かたあり兩岩ありて具あるに柱門を構ふ似たり是を
靈巖寺と名付たりしなり一園行法師入唐して著するの書は
兩社の密教を授けられたるに帰朝して西堂の堂ありしなり
菩提樹の堂あり一里とあり西あり
小野通風はや一海の板板とありし所ありけ所の成神あり
登石の東河内の中ありの冠の形なる名とする

大德寺





今宮社

今宮の

あつち

はるか

くまの

宮古

やしろ

こく

めり

長

社



今更け社に紫野のり渡り社と二条院の沙宇正曆六年六月廿七日松園社に
ふはのりてり谷若葉のり七長保二年八月九日新ふのりして今更け
のりめらる今牛頭天皇と物結して二座あり

白物社とまゝとてなごりのりていついそ初めは東のむら 藤原長統

孫は十日の夜須禰神のりてか養上野村里人馬智子と禰神のりとの夜若
を力とてけ苗と次転をあしけ社とてのりてりてりてりてりてりてり
み長湯の帝のりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
先とせりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
をとせりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
とてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
中書會のり八月十八日とてりてりてりてりてりてりてりてり
常盤のり長経誕生のり今更けの東大寺を建て侍のりてりてりてり
たは盤は前よりいいて東治元年に年あぬは長経とてり

舟園に紫野の西よりの舟形はゆるゆるとてりてりてりてりてり
ふに紫野のり人細川ふ名に神杖なる合戦ありて

新築まつりて羽 ちりちり
新築まつりて羽 ちりちり

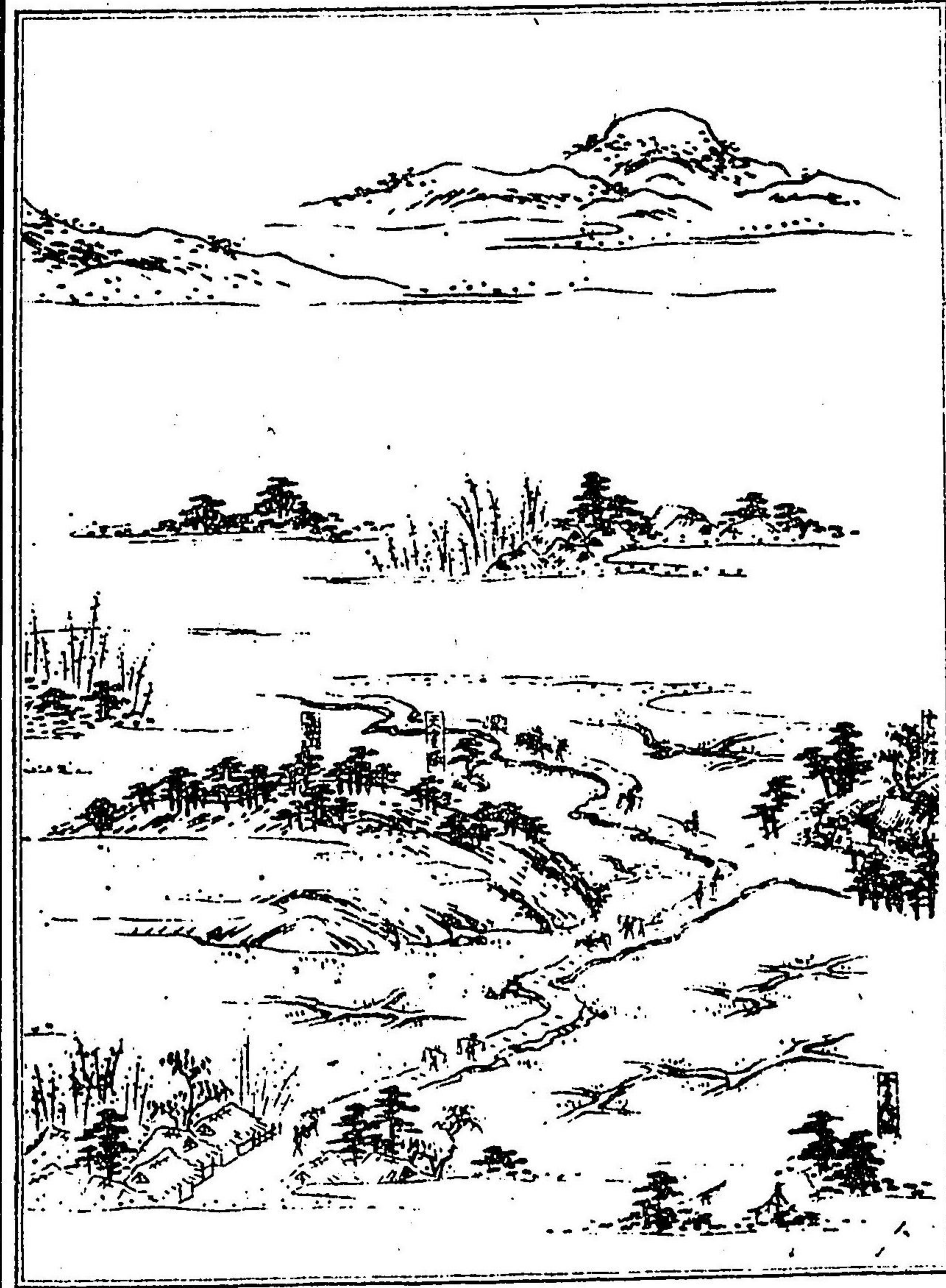
後まつりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり 二条宮

舟是れ社中ふたふたか花ははるふ人のりてりてりてりてり 淡人宮

雲林院の紫野よりの淳和帝の離宮あり仁明天皇は清子常康親王
たれを侍人領しゆ人具後天曆帝の時時僧正遍照を別當り
神せりて堂塔殿を多き建られり今雲林院と習てひかりの
御名とてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
その林とてり

今ぞ初るその林の星いそ空ふみとてりてりてりてり 延信

浦ふー其の宮人らむらてりてりてりてりてりてりてりてり 良選法師



七の社は舟園の南ふあり當社の深殿の后に祈願ふなり之堂の
の表目明神成勅傳すし海をく其後伊勢に清水橋着か後
松尾平野に併せり七社と号を又一説小治に少し七社あり
内社小野柏野蓮臺社上野平野の中ふ奈れり社を
あらしとて諸願ありとの社あり砂を積む之堂に狀
うのをあり春日穀向の標れ本もけ地あり

今宮に津藤所の雲林院の巽ふあり每歲五月七日奉社より神樂
遷座ありりて茶店敷をつつて芝居敷下師奉り極乃奉
後くは十八日神樂ありしとて極ありといふなり

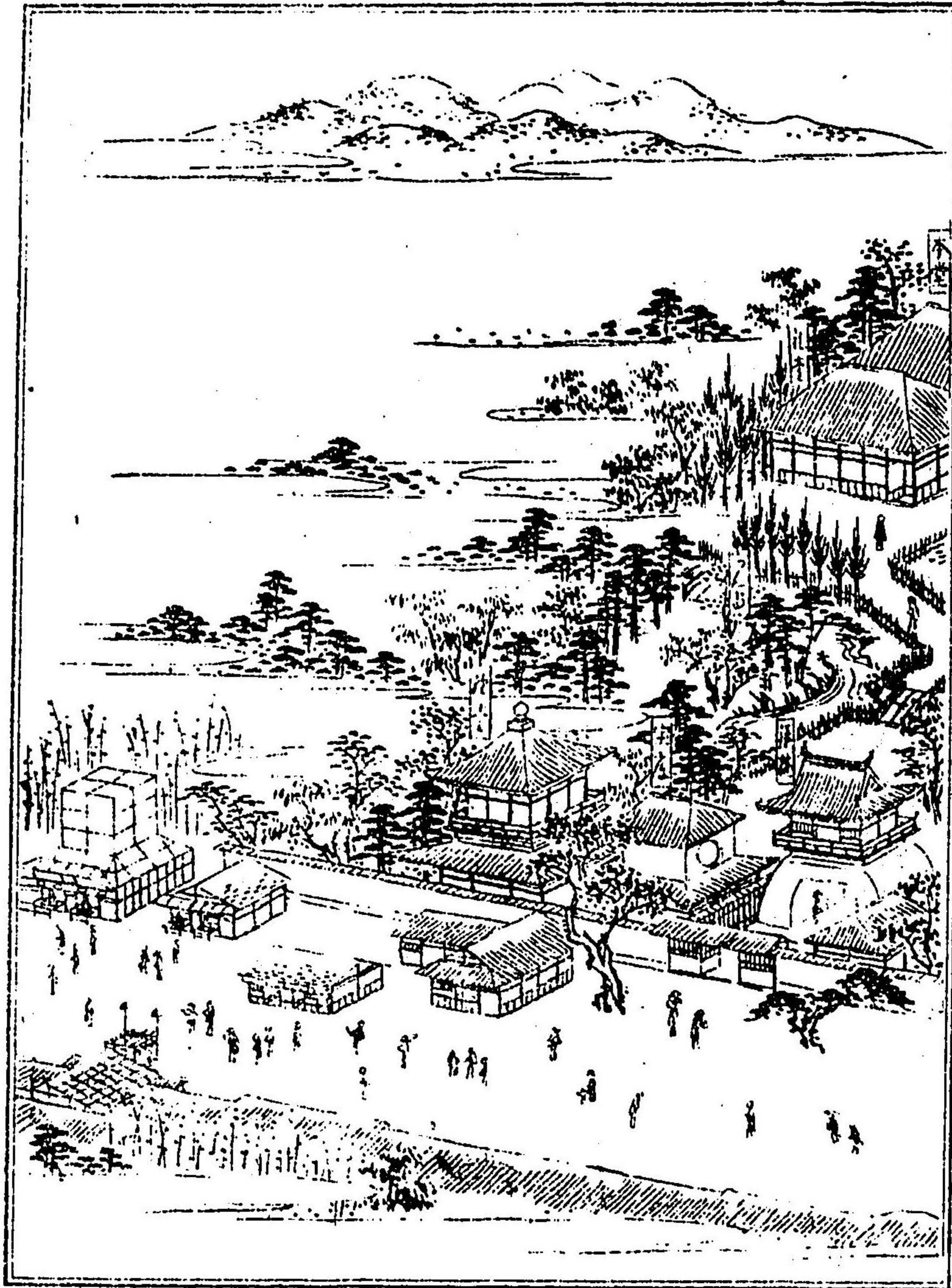
上品蓮臺寺の千本通の山頭ふあり同基聖徳太子あり其後
僧正觀空位職して志言宗とありし奉尊地藏菩薩の
聖徳太子の御代あり又弘法大師自他に極安を極安平
上皇に所小おめと密灌と稟あり

元亨釋書

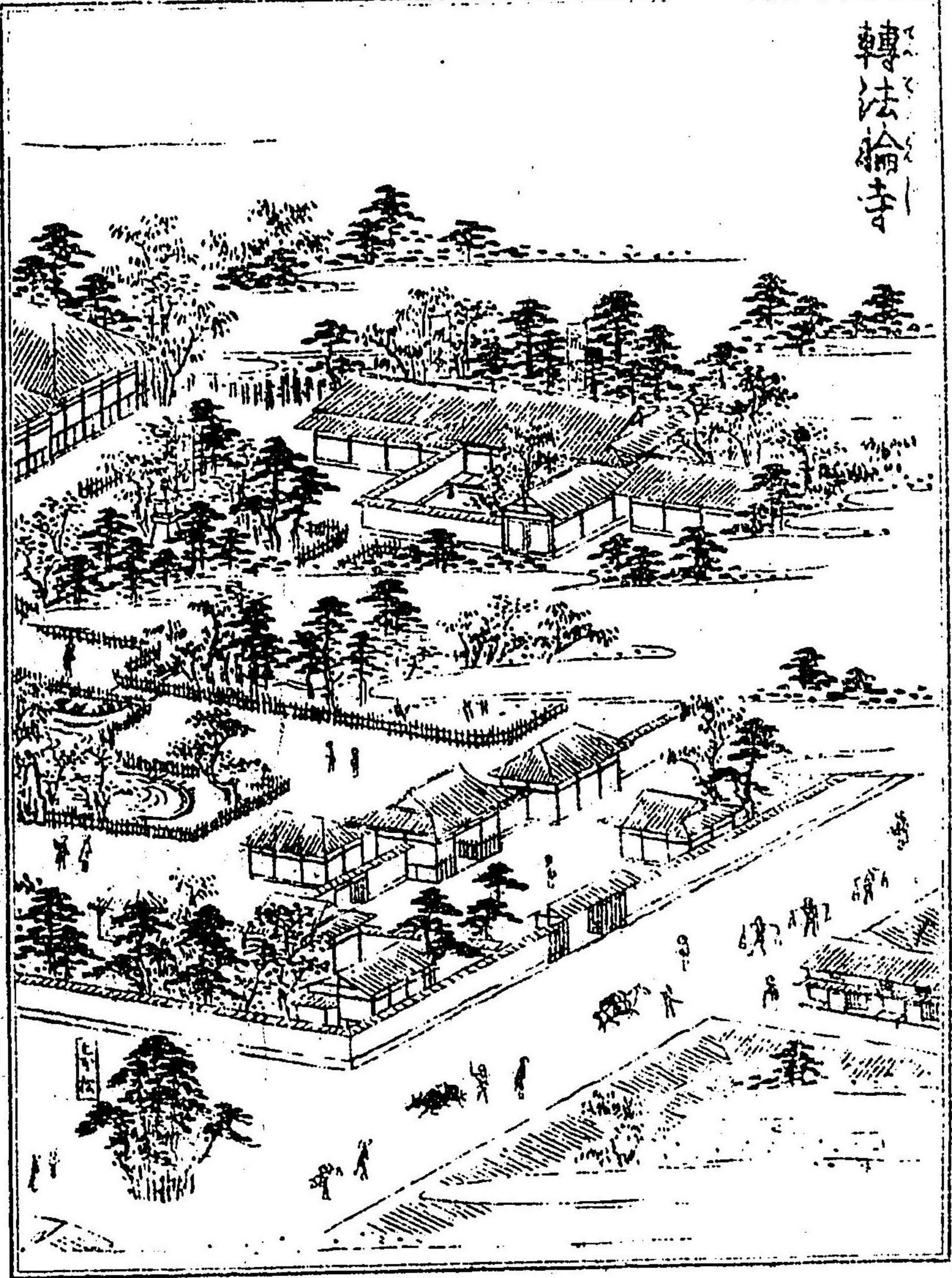
金山天王寺は北野社東の口通ふあり天台宗なり奉尊如意輪觀音
ハ聖徳太子の位あり 洛陽觀音巡の
具一ヶ所 同基ハ聖徳太子と則自他乃
像安を極安太子堂の額に釋迦如來轉輪聖王所上宮太子淨跡
中心に書して小松院の遷轉あり

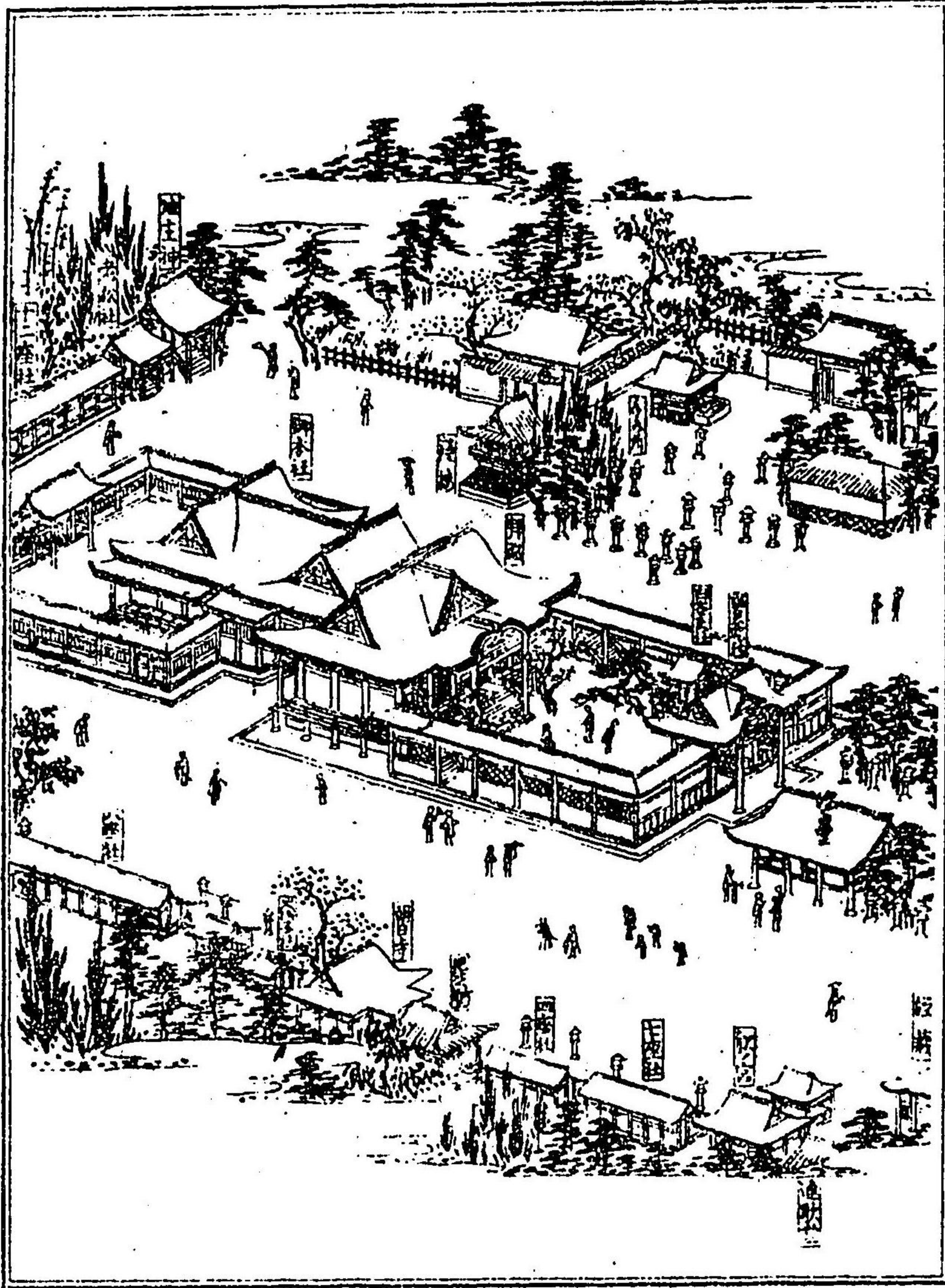
紅梅殿ハ天王寺のありありなる所菅林の愛のハ花梅ハ靈神あり
清和院ハ七本松通一条の山あり真言宗なりて聖觀音地藏菩薩
ハ二尊安を極安原を極通春日ふあり今清和院所門と號と
明曆年中よけ地に移と

具足山ハ本寺ハ日通正親町ハ西あり法華宗なりて日像上人ハ同
基ハ後祖師堂ハ安を極安日蓮上人の像を曾影しハ初め松永久秀
ハ男右衛門佐之通侍ハ佐々木廣次ハ出陣の時中ハ懐刺を
曾影しハ中ハ藏心盗人ハハ極安を極安極安を極安極安
次ハ懐刺して當宗門ハ極安を極安極安を極安極安



轉法輪寺





北野天満宮





平野社

新十載

らくわゆる

平野の

松

久人の

花候

多め

免

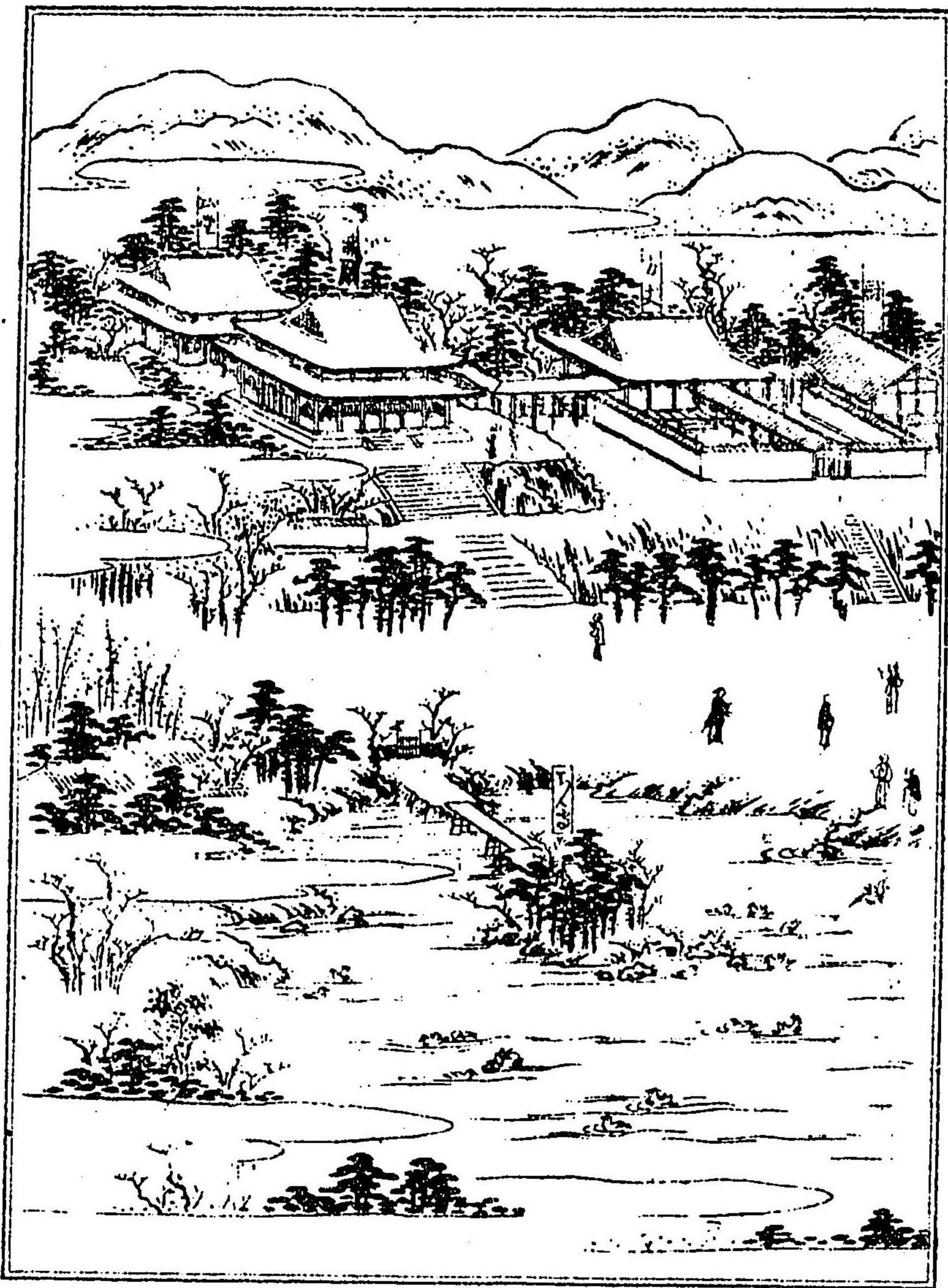
一人





等持院





龍舟

寺持院の衣笠の林あり

開基の善忠國師ありて足利尊氏公に建てるありし一仁におさる
一院とすり本尊の地藏菩薩大聖歡喜天の堂鎮守六請明神等
今に五つとすむの遺跡あり寺持院の堅固の相も義備ふ
足利家累代に昭堂の慈照院義政公のしるしあり證果の額ハ
開山善忠にあり

衣笠の寺持院のうしろあり仁治年中に内大臣藤原家長に
別荘と建つて衣笠内衣笠とすりあり

そののちの藤原のいけ井家あり内衣笠の林ありたり
給掛とすりあり一寛永法皇御室に於てある月の巻天と海
香に眺みぬとすりけ平に白た道ありけをまをれりたたり
のしるしあり

小松内大臣重盛公の草持の地ハ衣笠のふさる林あり

衣笠の善安寺の寺持院ハ西あり

開基の長天和尚文明年中に細川右京大夫勝元とありあり
初いたたけ實能公のしるしあり徳大寺公有公の代細川勝元け地とを
傳りしあり寺持院の釈迦佛大元達磨の像ハ東西に横あり惠光様
像細川勝元の像安徳公の四天あり画ハ東福寺北殿にあり
方丈の勝元の館東院とすりあり寺持院の築は地色の風色ハ勝元の
物敷ありけ地ハ衣笠の山あり遠小園と一陽來復より温
るめりあり寺持院ハ地ハ面ハ水ありけあり寺持院の眺みありと
善安寺の善安寺とすりあり

真如寺の衣笠の善松原村の西あり

開基の善忠國師本尊の釈迦佛仏光國師像燈下は安徳達磨佛は
善忠の記ハこれ根拠あり初ハ善著尼とすり人ありけとすり
とすり康永年中に善武藏守師直修造とすりあり

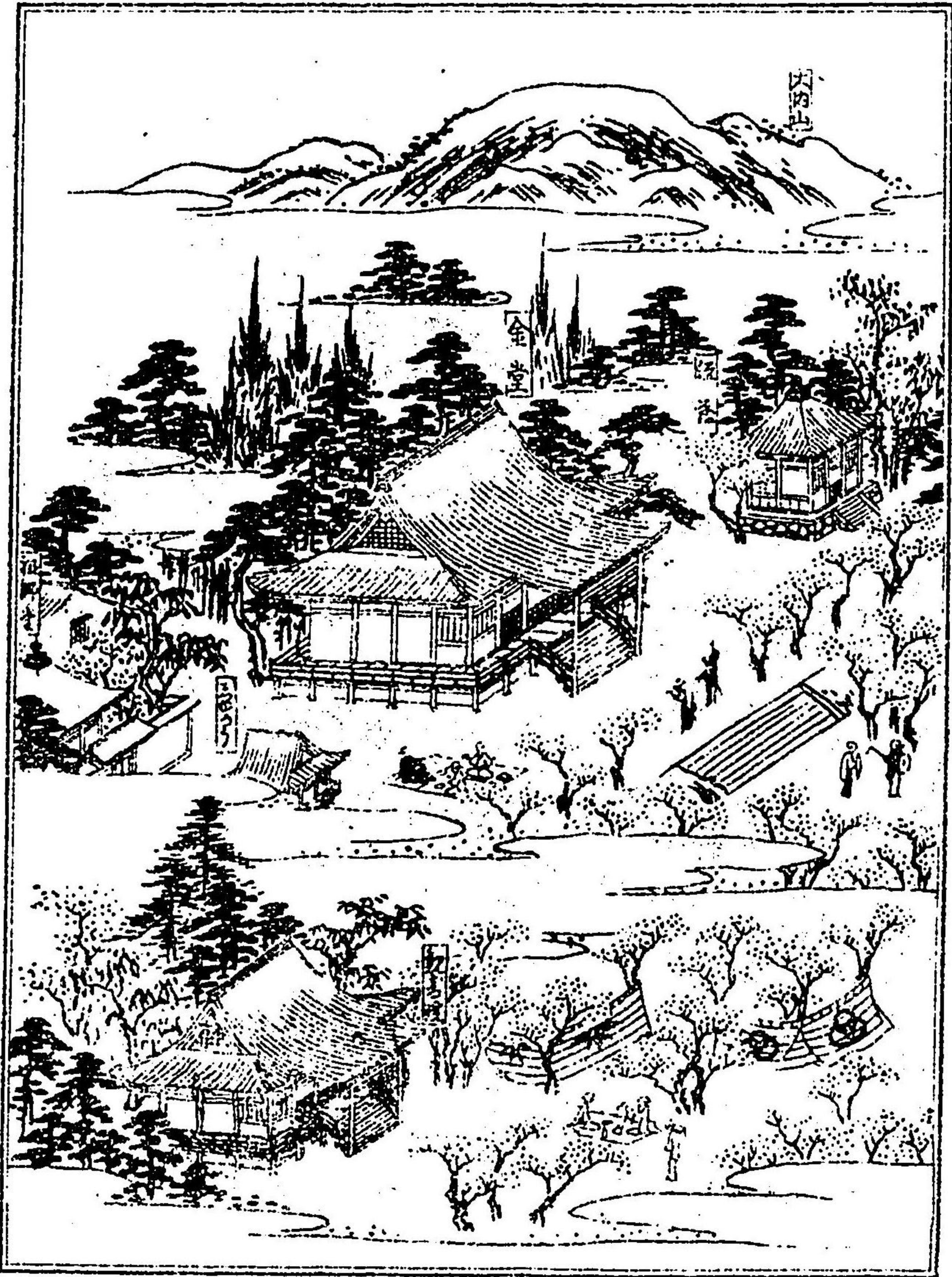




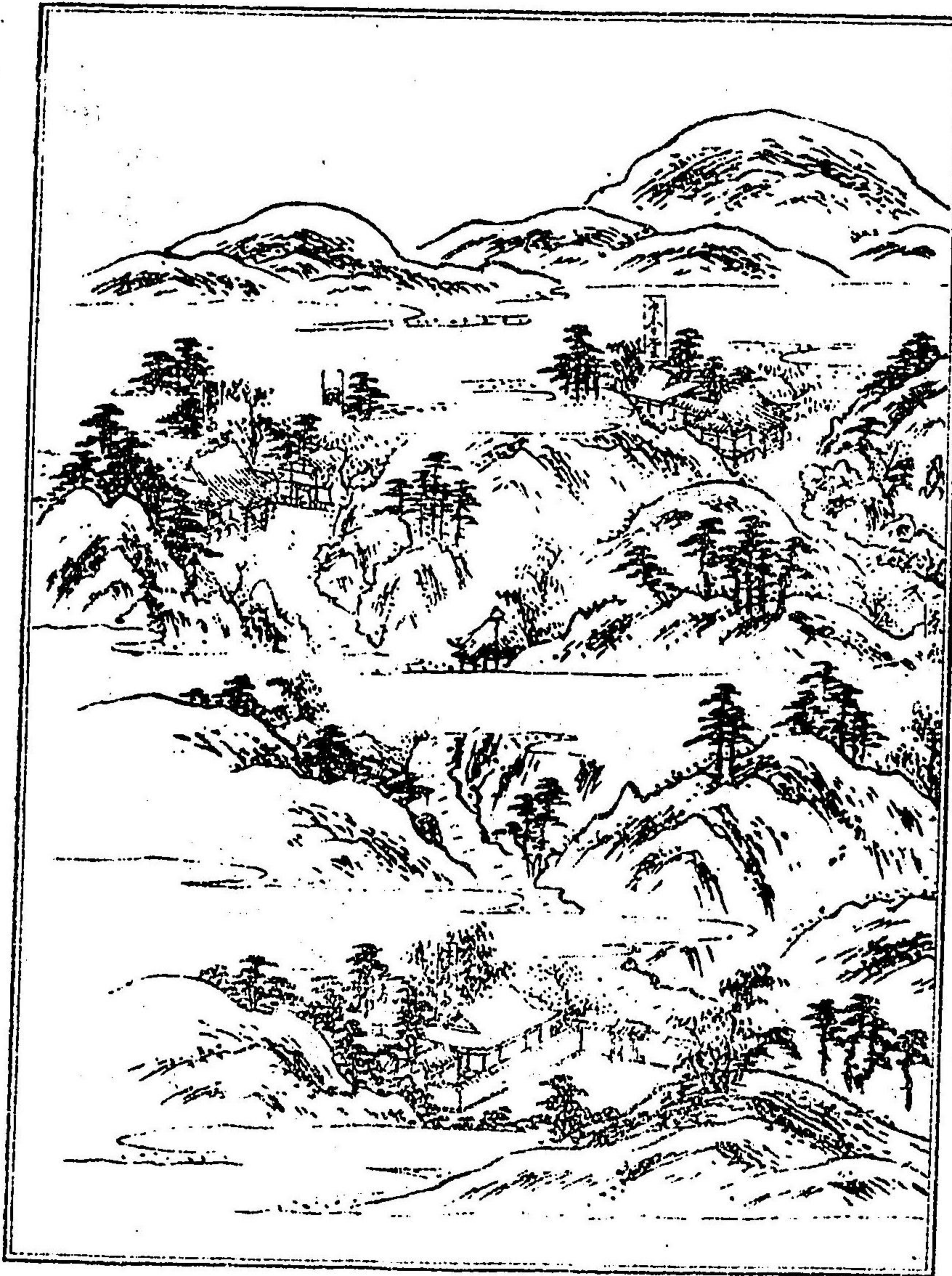
松のまや
るしひれ
長の
茶屋
おぼろ
月も
あつた
八通一平



雙國



佛室仁和寺





三般寺
三般寺

五智如來



五智山ふい又智の如來たるせり山よりの眼の五智者不痴観慧持
 石佛とありて凡草林法師はまろみりあり

三寶寺の西のふいふありて日蓮宗ありなきありて釋迦をいふ
 上りのありて日蓮上人とあり

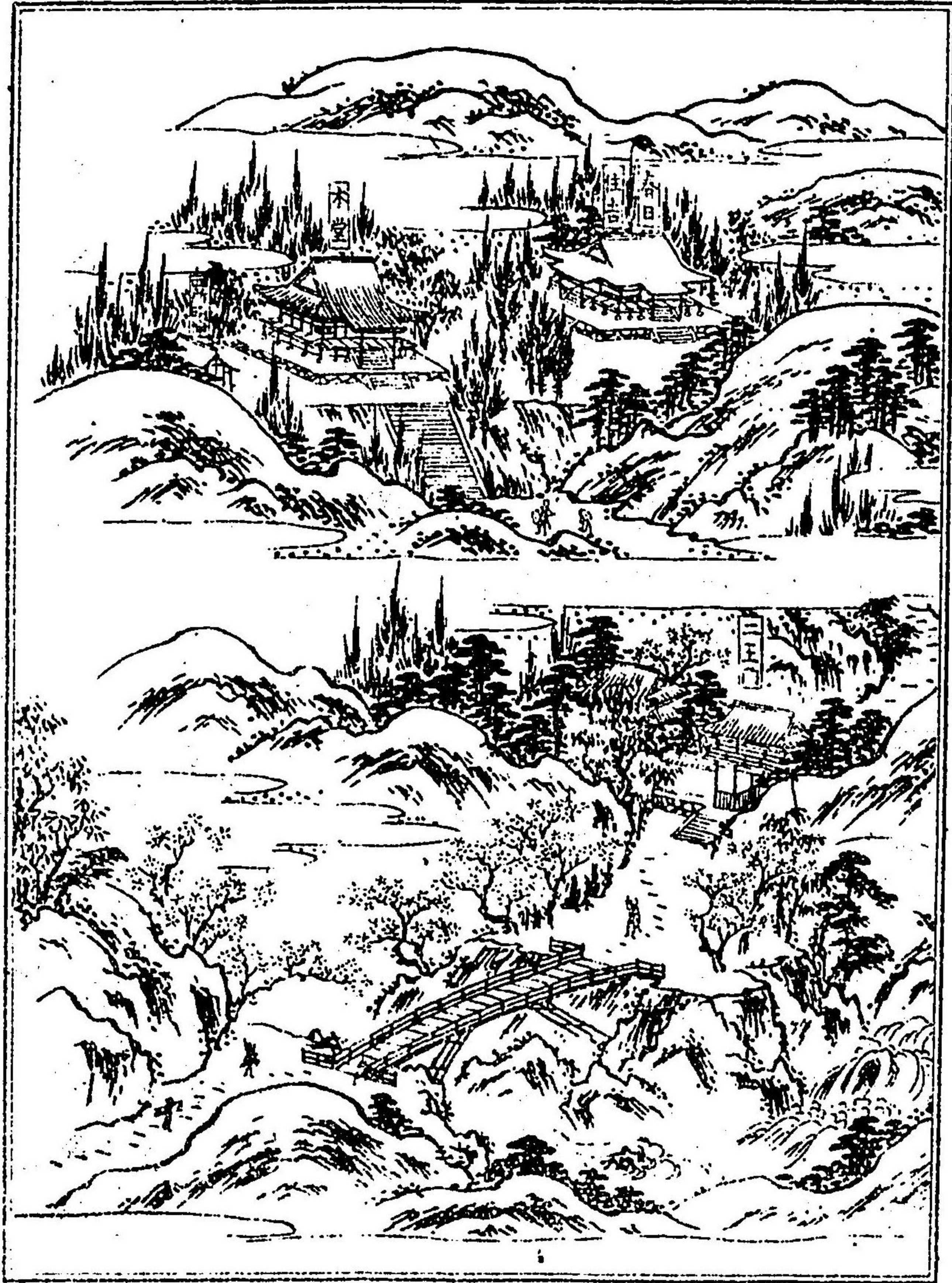
衆般しりり如來と般美との間にありて一なる如來は清子覺世法
 親王に所は清室といふは信せぬ入なり

此の竹岸又故家のとありて佛のせんして衆教入りのりに
 長尾に松系れり人衆とくくあり

ありて一の松れりて一の香をすて衆教入りのりに
 清茶をまらりつてあり

さうねくて清り一もの茶をすて一の香をすて衆教入りのりに
 平園の信實の法大師の如來ありて一の香をすて衆教入りのりに

梅畑の如來ありて一の香をすて衆教入りのりに
 梅畑の如來ありて一の香をすて衆教入りのりに



栴尾山高山寺